

地方史情報 164

2023年11月

地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

| | | | | | |
|------|----|-----|----|------|----|
| 北海道 | 1 | 富山県 | 26 | 和歌山県 | 47 |
| 青森県 | 2 | 石川県 | 28 | 岡山県 | 47 |
| 宮城県 | 3 | 長野県 | 30 | 広島県 | 49 |
| 福島県 | 4 | 岐阜県 | 33 | 徳島県 | 51 |
| 茨城県 | 5 | 静岡県 | 34 | 福岡県 | 51 |
| 群馬県 | 5 | 愛知県 | 34 | 佐賀県 | 52 |
| 千葉県 | 7 | 滋賀県 | 36 | 宮崎県 | 53 |
| 東京都 | 9 | 京都府 | 37 | 沖縄県 | 54 |
| 神奈川県 | 21 | 大阪府 | 40 | 寄贈図書 | 55 |
| 新潟県 | 24 | 兵庫県 | 44 | | |

北海道

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでる2・7ビル9階

TEL011-271-4220 <https://hokkaido-bunkazai.jp>

◇395 2023.9 A4 8p

登録有形文化財 レースホース牧場(旧大日本競走馬生産)本厩舎 田中 康平

コロナ禍明けの祭礼と民俗芸能 二〇二二(令和四)年からの調査 舟山 直治

「今だけ、ここだけの赤れんが庁舎」赤れんが庁舎改修事業受注コン

ソーシウム施工業務竹中工務店・岩田地崎建設

藤田 純也

「文化の礎」—裏打紙

玉井日出夫

シリーズ 伝える北海道遺産 5000年の歴史

「霧多布湿原」を未来の子どもたちへ

小川 浩子

まちのイチオシ 更別から生まれ、育って、広がる文化

阿部 義昭

第1回文化財講演会 化石が語る北海道の独自性の背景

古澤 仁



*文化財修復の技法と材料について言及した玉井日出夫「文化の礎」裏打紙一は、コラム風の短論考であるが、裨益させられるところが多かった。

裏打ちは書画の温湿度による劣化防止のために、裏に薄紙を貼って補強することであり、最初に貼ることを肌裏、次から順に増裏、中裏、最後は総裏という。それぞれに適した和紙があって、京表具では一般的に増裏と中裏に奈良県吉野で漉かれた薄くて柔らかい美栖紙、総裏には同じく宇陀紙が使われている。裏打ち用の和紙は長期間の補強に適したものでなければならないが、次の補強の際には貼り替えるため、剥がしやすく、貼付に用いる古糊との相性も求められるのだという。誠にきめ細やかで奥が深い作業であることを知った。

ところが、生活様式の変化から、和紙そのものの需要が大きく減り、和紙生産者の後継者確保も極めて困難な状況にある。玉井氏は、このままでは、文化財の保存修復への影響が懸念され、「共生社会に向けて、日本古来の木と紙の文化をもっと大切にする必要がある」と指摘する。

伝統工芸は分業で成り立っており、和紙においては、漉き職人はもとより、漉き用の竹箆を編む職人、それに使用する水に強い特性の糸、それら補助用具の原材料生産者のいずれが欠けても成り立たない。また、裏打ち用の古糊の製造はどのようにになっているのか、様々考えさせられた。

青 森 県

◆八戸地域史 八戸歴史研究会（発行：伊吉書院）

〒039-1164八戸市下長2-7-19 三浦忠司方 TEL0178-38-7376 1982年創刊

◇60 2023.9 A5 82p 900円

| | |
|------------------------------|---------|
| 口絵 八戸藩主の奥方と子の墓碑 | |
| 加賀美流弓馬術巻子を明らかにする一奥州南部流鎗馬史(6) | 黄綿 昶行 |
| 地獄沢の階上山青龍寺の謎 | 滝尻 善英 |
| 八戸藩主の奥方と子どもたち一子を産んだ正室と側室の有り様 | 三浦 忠司 |
| みじか史 | |
| 八戸藩の藩主別邸一新井田御殿を中心として | 中野渡一耕 |
| 奥平昌高の訃報と南部信順一官名「左衛門尉」についての寸考 | 本田 伸 |
| 大正期の鮫港修築運動 | 小池祐賀子 |
| 八戸炭と小中野のにぎわい | おりかわかおる |
| 書評 菊池勇夫著『戊辰戦争と東北・道南』 | 三浦 忠司 |
| 八戸地域史発行目録(創刊号から第六十号まで) | |

宮 城 県

| | |
|---|-------|
| ◆ナジェージダ(希望) 石巻若宮丸漂流民の会 | |
| 〒236-0052横浜市金沢区富岡西2-21-23 大島幹雄方 Tel.045-773-4643 | |
| http://deracine.fool.jp/wakamiya/ | |
| ◇50 (vol.22) 2023.8 A4 36p | |
| 2022年度石巻若宮丸漂流民の会総会・新講談口演会報告 | |
| 総会報告 | 大島 幹雄 |
| 新講談「若宮丸漂流物語一ふるさとなお遠く一」を終えて | 木村 成忠 |
| 新講談の口演を終えて | 藤沢 智子 |
| 『環海異聞』の写本を訪ねて(3) 足利学校の美本 | 大島 幹雄 |
| 会報50号記念! ① 特集 連載「私と若宮丸」特別版 | |
| 若宮丸と私 | 阿部 和夫 |
| 「語りくれよ」を肝に銘じて | 木村 成忠 |
| 私と若宮丸 | 倉田 良佳 |
| 35年前の宮戸島旅行 | 小林 郁 |
| 私と石巻若宮丸漂流民の会 | 小松 芳文 |
| 私と若宮丸 | 佐藤三寿江 |
| 私を育ててくれた石巻若宮丸漂流民の会 | 齋藤 博 |
| 若宮丸漂流民との出会い | 平川 新 |
| 私と若宮丸 | 本間 英一 |
| 私と若宮丸 | 松井 哲朗 |
| 会報50号記念! ② 寄稿 会報50号に寄せて | |
| 四海三櫓我一櫓 | 安達 裕之 |

幻の旅憧れのヤクーツク

「私と若宮丸」の出会い

『環海異聞』との出会い

私と若宮丸

50号おめでとうございます！

函館で善六の足跡を追うイベント開催

善六来函210周年記念函館ツアー

告知板 書籍紹介

谷川正明『知っ得く 石巻弁』

『近世日本のキリシタンと異文化交流』

阿部 和枝

伊達 宗弘

牧野 元紀

深見 美希

弓削 愛

福島県

◆ふおーらむ・F 福島県民俗学会

〒965-0807会津若松市城東町1-25 福島県立博物館内 2011年創刊

<http://fukushimafolklore.com>

◇17 2023.8 A4 4p

令和5年度福島県民俗学会大会が無事終了しました

令和5年度福島県民俗学会大会が無事終了しました 研究発表要旨

四家久央氏 古文書と年中行事の再現—四家家『定例帳』を素材として

富永真理恵氏 白河市権兵衛稲荷神社の農耕彫刻について

フォーラム 「浜下り」の祭りを語る

WANTED !! いわき市鹿島町 カマガミ

四家筆久央

富永真理恵

岩崎 真幸

丹野香須美

◆文字摺通信 ふくしまの歴史と文化財

〒960-8204福島市岡部字東町35-6 守谷早苗

◇47 2023.9 A4 4p

福大図書館から『大日本名蹟図誌』第拾貳編磐城岩代之部全6巻を借りてきました 圧巻は折りたたんだ神社・寺院の銅版画です！

万世大路円部の「鳳駕駐蹕之蹟」碑が危ない！ 今すぐ保存処理を！

山口厚氏撮影第一小学校コレクションより 洋式建築物「県立図書館」

◇48 2023.9 A4 4p

明治27年「間引き戒め之図」

絵馬産業革命の確立との関連で考えてみました。

飛地となっている下野寺村と笹木野村

◇49 2023.10 A4 4p

第一小学校資料から

昭和11年大運動会記録、戦争の足音がヒタヒタと…

一筆啓上、文化庁様(2)

文化財は資源ではありません、それ自体に価値があるのです！

石仏・石塔・石碑を訪ねる(1) 石塔「恐山地蔵大菩薩」

福島市飯坂町平野字寺脇7 曹洞宗岩井山金剛院

◇50 2023.10 A4 4p

石仏・石塔・石碑を訪ねる(2) 最北端(かな?)の阿弥陀三尊来迎像

碑 福島市北矢野目字坂東 共同墓地内

青山文平著『かけおちる』に読む養蚕技術書の制作意図

茨城県

◆史境 歴史人類学会

〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学人文社会系内

TEL029-853-4047/4403 1980年創刊

◇82 2023.3 B5 92p 4000円

講演 砂糖と移民から見たアメリカ西部の開拓

矢ヶ崎典隆

近世の史論における天皇と武家政権—『大日本史』論贊の分析

平野 仁也

昭和戦前期の皇位継承問題と宮内省—皇太子誕生をめぐる

二ノ宮幹太

清代乾隆後半における雲南辦銅の動揺が各省に与えた影響

上田 裕之

甘肅省における省営銀行制度の導入(一九三三—一九四五)

—機構と人員からの分析

王 春信

現代農村における祖先祭祀の実践とその伝承

—茨城県阿見町にある2名の祭祀者の事例から

李 雪

群馬県

◆ぐんま地域文化 群馬地域文化振興会

〒371-0801 前橋市文京町3-27-26 群馬県立文書館内 TEL027-226-6246

1993年創刊 <https://www.gunma-chiikibunka.jp>

◇61 2023.10 AB 36p 300円

《秋間の古代史 特集／群馬地域文化振興会30年 特集》

歴史を掘る 群馬のアーカイブズ—群馬県立文書館

岡田 昭二

国会設立三十周年を迎えて

茂原 璋男

特集 秋間の古代史

| | |
|----------------|-------|
| 秋間の古代遺跡 | 関根史比古 |
| 秋間の終末期古墳 | 鳥居 貴庸 |
| 山王廃寺と秋間生産の瓦 | 池田 史人 |
| 複弁蓮華文軒丸瓦の系譜 | 松田 猛 |
| 植松・池尻遺跡の古代建物再考 | 井上 慎也 |
| 本郷満行原遺跡と秋間古窯跡群 | 齋藤 聡 |
| 碓氷郡飽馬郷の再評価 | 関口 功一 |

特集 群馬地域文化振興会三十年

| | |
|------------------|-------|
| 本会三十年の歩み | |
| 石川翁と尾崎先生 | 梅澤 重昭 |
| 石川薫先生の人となり | 唐澤 太市 |
| 社会福井に貢献した石川薫先生 | 小出 省司 |
| 群馬コーヒー事件とは何だったのか | 石川 靖 |

ぐんまの歴史入門講座 第242講

| | |
|-------------------------------|-------|
| 旧安中市の石造文化財 石造文化財の見方(50) | 秋池 武 |
| 古文書解読入門講座(48)一古文書から歴史を読む | |
| 近世上州の温泉と湯治一温泉番付と関所通行手形から | 阿久津 聡 |
| 礫石経の世界(6) | |
| 「生須納経供養碑」のこゝ一江戸時代末期の山間村落の様相から | 唐澤 至朗 |
| 上州の関所と番所(6) 西上州の関所と幕府の実地検分 | 岡田 昭二 |
| 地域文化Q & A 高崎城絵図 | |
| 一枚の写真から…… 近藤沼の今昔(館林市) | 宮田 毅 |
| ぐんまの自然と風土 秋間梅林 | 多胡 美佳 |

◆群馬地名だより 群馬地名研究会

〒379-2144前橋市下川町6-16 井野修二方 TEL027-265-3859 1989年創刊

◇103 2023.10 B5 8p

群馬地名研究会が始まったころ 井野 修二
令和5年度総会資料

◆群馬文化 群馬県地域文化研究協議会

〒372-0831伊勢崎市山王町38-38 前澤和之方 年4000円 1957年創刊

<https://gunmabunka.org/wp/>

◇349 2023.8 A5 86p

令和四年度(2022)研究大会特集《シリーズ ぐんま塩鉄酒論》vol.1

「時代を超え、生活を支える鉄について考える」

| | |
|--|-------|
| 古代群馬の製鉄 | 笹澤 泰史 |
| 中国地方における中世製鉄技術の革新と特産地の形成 | 角田 徳幸 |
| 東北地方における古代から近世の製鉄 | 能登谷宣康 |
| 研究大会参加記 | 鈴木 英恵 |
| 研究大会参加記 | 永井 三郎 |
| 「上野国交替実録帳」研究補遺一 国司の職務意識 | 前澤 和之 |
| 群馬の歴史的建造物(8) 神保家住宅 | 長井 淳一 |
| 新刊紹介 | |
| 小原俊行著『旧石器狩猟採集民の環境適応史』 | 関口 博幸 |
| 山口幸男著『地理教育の本質 日本の主体的社会科地理教育論を指して』 | 町田 悟 |
| 書評 小田原近世史研究会編『近世地域史研究の模索—「つながり」の視点から—』 | 小嶋 圭 |
| 会告 令和五年度総会の開催 | |
| 口絵 伊香保温泉 小間口—群馬県立歴史博物館蔵品資料(150) | 江 幸太郎 |

◆武尊通信 群馬歴史民俗研究会

〒372-0033伊勢崎市本町5226-12 永島政彦方 TEL0270-32-9070 1979年創刊

◇175 2023.9 B5 4p

上州山中領にみる山地利用の側面—林地と藪地をめぐる 佐藤 孝之

上野国大室庄と武蔵丹党 須藤 聡

第40回講演会記事 橋本素子氏「中世の喫茶文化—『長楽寺永祿日記』

を中心に—」(築瀬大輔)／二〇二三年度総会の記録

千葉県

◆我孫子市史研究センター会報

〒270-1152我孫子市寿1-3-12 荒井方 TEL04-7182-2838

<http://abikosisiken.main.jp>

◇255 (通562) 2023.8 A4 16p

東海道を少しだけ歩く 鈴木江里子

歴史探訪部会 古代・中世史部会 8月活動報告 新名称「北星照ラス

根戸城址の森」根戸城址・金塚古墳の訪問記 報告者・中嶋正義

古文書解読火曜部会 7月度活動報告

布施村後藤家文書「川岸場一件扣書」(享保四亥年方同十八丑年迄)

安藤 邦臣

考察メモ 布施河岸と鬼怒川の奥筋荷物

—後藤敏家文書から河岸機能と動向をみる

山崎 章藏

牛久助郷一揆の記録「高島家本」(「牛久徒党夢物語」)の検討

清水千賀子

平成元年、我孫子市都部のオビシヤ

近江 札子

中里の外川神社について

飯白 和子

◇256 (通563) 2023.9 A4 12p

市史研創立50周年にむけて

我孫子市史を読む会 9月度活動報告 『千葉県の歴史 下総国 近
世編』第2章第3節①から④29頁～36頁迄

古代・中世史部会 9月活動報告 「将軍記」の成立をめぐる／承

平・天慶の乱の歴史的前提

報告者・金古 尚

井上家文書研究会 9月の活動報告

No.1047(下書きカ)「下総国相馬郡相嶋新田検地帳」、No.1061「下総
国相馬郡浅間前新田検地帳」

品田 制子

古文書解説日曜部会 9月の活動報告「根戸村・文久3年御用留」

山崎 章藏

伝説を科学する—「弘法の水伝説」の伝播と飢饉

飯白 和子

◆佐倉の地名 佐倉地名研究会会報

〒285-0843佐倉市中志津6-21-13 田中征志方 TEL043-489-7439

年2000円 2012年創刊

◇32 2023.10 A4 12p

和田の地名について(1)

田中 征志

佐倉・弥勒町の由来

小川 眞資

志津の地名について(21)

田中 征志

「忍」地名について

伊藤 清

地名の由来 油免

松永 茂

「鉾物地名」について

伊藤代々子

直次郎じいさんの砲弾

野村 忠男

佐倉地名研究会活動通信 令和5年度総会

◆紙魚之友 房総史料調査会

〒113-0033東京都文京区本郷7-3-1 東京大学文学部日本史学研究室

1985年創刊

◇44 2023.9 B5 6p

二〇二〇年十一月二日 房総史料調査会例会報告要旨

下総牧羊場と内務省勸農政策
討論要旨

上西 晴也
文責・小林優里

◆房総石造文化財研究会会報

〒275-0001習志野市東習志野5-30-4-404 木原律子方 TEL047-473-3540
年3000円 1980年創刊 <https://sites.google.com/view/bosekiken/>

◇147 2023.10 A4 4p

十月 勉強と見学の会ご案内「佐倉の石仏と『歴博』展示を見る」
十一月 石仏ゼミナールのご案内 テーマ「地藏菩薩のはなし」
行事報告 七月 勉強会について テーマ「石仏の基本から応用まで」

東 京 都

◆あしなか 山村民俗の会

〒330-0854さいたま市大宮区桜木町4-201-2 塩野谷明夫方 TEL048-465-7818
年5000円 1939年創刊

◇328 2023.10 B5 14p

表紙解説 星宮神社奉納「鍛冶絵馬」(埼玉県飯能市赤沢) 編集室
記憶の始まり・敗戦前後一東京下町・墨田、江東、江戸川区周辺 小海 敏雄
奥多摩・天目指集落跡とその周辺一「サス」地名を訪ねて・その1 荒井 俊昭
山里だより(37)
岩角山岩角寺と角大師の絵札一福島県本宮市和田字東屋口 関 啓司
旅の草ぐさ(36)
長谷寺「燈明」と火の伝承一網代東岸周辺を歩く・その2 山立 虎魚
あしなか通信〈番外編〉山村民俗の会『あしなか』継続出版へ向けて
宮崎県清武町 矢口裕康／東京都青梅市 中嶋捷恵／神奈川県川崎市
市 山田哲郎／ヌーベル社 矢吹仁子／東京都練馬区 荒井俊昭／
静岡県伊東市 あしなか編集室

◆明日を拓く 東日本部落解放研究所

〒111-0024台東区今戸2-8-5 TEL03-5603-1863 1993年創刊
<http://www.hblri.org>

◇137 (49-2) 2023.9 A5 90p 2000円

《特集 夜間定時制高校の現在》

特集にあたって 編集部
夜間定時制高校の現状と課題一多様性とセーフティネットへの転換 角田 仁

相模原市における夜間中学の設立に向けた私たちの取り組みと課題 吉田 恵一
 神奈川県立高校夜間定時制課程の募集停止・廃課程をめぐって 鳥山 洋
 ヒューマンライツ再入門(6)
 包括的差別禁止法のために一国連実務ガイドの紹介 前田 朗
 古文書を楽しむ(12) 古文書を読む会
 本の紹介 山脇史子著『芝浦屠場千夜一夜』 鳥山 洋

◆あるむぜお 府中市郷土の森博物館

〒183-0026府中市南町6-32 Tel.042-368-7921 1987年創刊
<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

◇145 2023.9 A4 8p

どんなもんだい？縄文時代 その2

なぜ埋めた？ひょうたん形の土器と斧

石澤茉莉子

最近の発掘調査 高安寺のハケ下の物語(1) 片町二丁目

佐藤 梨花

NOTE 暗さを求めるくらやみ祭

佐藤 智敬

展示会案内 出張展「昆虫魅ようぜ！ 野外観察への誘い」

中村 武史

series みち～道・路・通～(2) 黒曜石がやってきたみち

石澤茉莉子

近代プラネタリウム誕生100周年！ プラネタリウムについて知ろう！

(2) ケイロンⅢ・ハイブリッドは府中っ子！

相澤 南美

◆板橋史談 板橋史談会

〒173-0015板橋区栄町24-12-203 井上富夫方 FAX03-3579-3178 年4000円
 1966年創刊 <https://sites.google.com/view/itabashishidankai/home>

◇317 2023.8 B5 47p

表紙写真解説 盆踊り 七軒家公園(上板橋二丁目)

撮影日：2017年7月30日

写真と文・井上富夫

板橋区の文化財(2) 新田坂道祖神等石造物

松崎 憲三

板橋宿飯田家の歴史

飯田 取

板橋区内の神社の石造物整備について

—四種類の石造物造立年代を中心に(4・終)

井上 富夫

城への誘い(8)・終

三原寿太郎

◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒175-0092板橋区赤塚7-18-7 年5000円 <http://okumusasi.travel.coocan.jp>

◇453 2023.9 B5 21p

表紙 二子山の尾根より武甲山／刈場坂峠より丸山 山と溪のハイキ

ング「奥武蔵」(昭14)より

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 富士講とご当地アルプス | 小泉 重光 |
| 謎の仙元峠 | 成川 茂雄 |
| 鐘撞堂山点描 その二 山歩きの楽しみ | 野口 実 |
| 変わった三角点の話(中)ー奥穂高岳に三角点がない | 町田 尚夫 |
| 山行報告 | |
| 6月集会山行「山の緊急トラブル対処方法」 | 村木 悦子 |
| 黒山三滝から関八州見晴台・飯盛山へ | 岡野 守 |
| 八王子城跡 | 吉田美知子／北浦香里／中山美子 |
| 調査山行・長瀨アルプス | 小泉 重光 |
| 白谷沢 | 河野 尚久 |
| 箱根 湿生花園・浅間山・旧街道 | 加藤 恒彦 |
| 奥武蔵雑感 表紙画に寄せて | 町田 尚夫 |

◆北区史を考える会会報

〒114-0023北区滝野川3-43-10-301 有馬純雄方 TEL03-3917-8115 1986年創刊

◇148 2023.8 B5 8p

「歴史ある街北区」の広報活動で「シビックプライド」の意識醸成を

有馬 純雄

第471回 月例研究会 6月25日(日)

飛鳥山渋沢邸でのグラント將軍歓迎の裏事情

黒川 徳男

第472回 月例見学会 旧古河邸のガイドツアー

報告・林 健一

第470回 月例見学会

荒川知水資料館アモアと土手の改修場所の見学

報告・山田美登里

◆儀礼文化ニュース 儀礼文化学会

〒160-0012新宿区南元町13-7 TEL03-3355-4188 <http://www.girei.jp>

◇231 2023.9 A4 8p

催事スケッチ 高知県香南市 山北棒踊り

六尺棒を激しく打ち合う妙技の数々「棒踊り」

写真と文・久保田裕道

儀礼文化を語る

儀礼文化講座(令和5年度第2回) 華道 「東池坊について」 茶道

宗偏正伝庵家元・一般社団法人東池坊家元後継 岩田宗玢

儀礼文化講座(令和5年度第3回) 礼法 「小笠原流弓馬術礼法に

ついて」 弓馬術礼法小笠原教場宗家 小笠原清忠

レポート 儀礼文化セミナー(令和5年度第1回) 神道

明治神宮正式参拝・明治神宮ミュージアム見学「寿ぐ美一吉祥の意匠をとおして」後期展示 青江みゆき
 第四十二回定期大会一催しは「雅楽・舞楽」を鑑賞 栗田恵津子
 会長式辞 九條 道成
 儀礼文化研究会報告
 台湾南部台南地域で行われる關燈科儀の初歩的考察 富田 綾美
 三峯神社本殿・拜殿の社殿構造と祭儀一享保期の修復再建に伴う建築の規模・意匠と儀礼構造の変化 川田 大晶
 ミュージアム探訪 鶴岡八幡宮 鎌倉文華館鶴岡ミュージアム(神奈川県鎌倉市)「鶴岡八幡宮の季節 夏」

◆交通史研究 交通史学会 (発売：吉川弘文館)

〒992-0025山形県米沢市通町6-15-1 山形県立米沢女子短期大学日本史学科
 原淳一郎研究室気付 1976年創刊 <http://www.kotsushi.org>

◇103 2023.9 A5 92p 2500円

交通史学会第49回大会・総会記録 常任委員会
 巡見報告 常任委員会(文責 原淳一郎・玉井幹司)
 東廻り航路の城米浦役人 井上 拓巳
 地名「御嵩」の表記の変遷 松永 直幸
 十字路 茨城県天心記念五浦美術館「旅するチバラキー連作《水郷めぐり》の全貌」展にみる舟運と湖頭集落・鉾田 寺門 雄一
 十字路 鉄道開業150年と鉄道展 鈴木勇一郎
 例会報告要旨

2022年度第3回例会報告 常任委員会(文責・井田泰人)
 講演 近世の大和川舟運 安村 俊史
 研究報告1 八尾と鉄道貨物輸送一竜華操車場の開設と廃止 井田 泰人
 研究報告2 大阪電気軌道(現、近鉄)の兼業と地域社会 谷内 正往

2022年度第4回例会報告
 第18回卒業論文・修士論文報告会 常任委員会(文責・井田泰人)
 収蔵資料紹介 第二回 古河歴史博物館の日光社参関係資料 永用 俊彦
 常任委員会報告 常任委員会

◆国史学 国史学会

〒150-8440渋谷区東4-10-28 国學院大學史学科気付 TEL03-5466-0246
 年4000円 <https://www2.kokugakuin.ac.jp/kokushi/>

◇239 2023.9 A5 138+18p

講演録

| | |
|---|-------|
| 近年の歴史地理学の研究動向と課題 | 林 和生 |
| 日本近現代史研究の五十年をふりかえって一大正時代史像を中心に | 季武 嘉也 |
| スペイン史料から 英国通商成立までのウイリアム・アダムスの十三 年間の動向を検証する | 鈴木かほる |
| 書評と紹介 | |
| 高橋勝浩編『出淵勝次日記』 | 真辺 美佐 |
| 奈倉哲三・保谷徹・箱石大編『戊辰戦争の新視点』上・下 | 加藤 弘之 |
| 令和四年度 国史学会総会大会報告要旨 | |
| 記念講演 | |
| 近年の歴史地理学の研究動向と課題 | 林 和生 |
| 日本近代史研究の五〇年をふりかえって一大正時代史像を中心に | 季武 嘉也 |
| 第一部会 日本古代史 | |
| 九世紀における皇后・皇太子受賀儀礼の変遷 | 花畑 佳奈 |
| エミシの宗教と南北交流 | 蓑島 栄紀 |
| 平安時代の受領任国統治の一考察—初任時の対応を中心に | 磐下 徹 |
| 第二部会 日本中世史 | |
| 秀吉の家臣団について | 中野 等 |
| 上杉家・豊臣政権間の交渉ルート | 篠崎 祐介 |
| 豊臣政権り吏僚代官による蔵入地支配—筑前・筑後を中心に | 木村 俊哉 |
| 第三部会 日本近世史 | |
| 一八世紀における名古屋商人伊藤家の相続と女性 | 松本日奈子 |
| 日本近世史 水戸偕楽園好文亭における奥向の活動 | 村上 瑞木 |
| 日本近世史 中川忠英をめぐる文明・紀律・空間 | 吉岡 孝 |
| 第四部会 日本近現代史 | |
| 立憲統治構造をめぐる大蔵官僚の思想と行動 | |
| —阪谷芳郎と添田寿一の議会論を中心に | 篠原 大輝 |
| 明治初期地方新聞の形成 | |
| —明治五～九年刊『信飛新聞』紙面の検討 | 寺島 宏貴 |
| ローレンツ・フォン・シュタインと近代日本皇室制度 | 杉居 宏枝 |
| 令和三年度例会報告要旨 | |
| 4月例会 | |
| 鎌倉時代の一国平均役と武家領対本所一円地体制 | 百瀬 顕永 |
| 折本装次第書の発生と展開 | 高橋 宙暉 |

令和四年度例会報告要旨

9月例会

「悪しき道々の者」雑考——八世紀後半を中心に
近世後期庄内における相撲興行と江戸相撲集団

関口 博巨
齊藤みのり

11月例会

一九六九年の第六一国会と佐藤栄作政権
明治期の衆議院議員選挙について—千葉県第二区の分析をもとに

市川 周佑
矢嶋 毅之

1月例会

弘仁・承和の青苗簿について小論
撰関～院政期の伊勢神郡と斎王制度

稲垣 竣亮
杉田 建斗

2月例会

縄文時代中期後半の同軸同範建築と建築更新
縄文晩期亀ヶ岡式土器の精巧さ

吉澤 徹
松本 耕作

例会「卒業論文報告会」

第一ミーティング

『根来寺伽藍古絵図』に描かれた僧坊景観の復元
縄文時代における墓での儀礼行為
荷札木簡から見る志摩国の贅

根本 誠
竹村 侑佑
森嶋 千晶

第二ミーティング

ギョベックリ・テベ遺跡に見られるシンボルの考察
—各地の動物像を例に
撰関将軍に関する一考察—家格と昇進を中心として
赤穂浪士の実像と武家思想—堀部安兵衛に焦点を当てて

河合 るな
千葉みゆき
町田 美穂

第三ミーティング

軍事演習と地域社会—習志野原演習場周辺地域を事例として
北アメリカ植民地における労働者の生活水準
鉄道施設の立地とその変遷—車両基地を中心として

宮脇 竜成
福田 直樹
外谷 観周

4月例会

室町殿主催行事と室町期公家社会
室町期京都と蝦夷地—北方交易品の消費地(都)と供給地(鄙)から
みた都鄙関係試論

林 遼
久水 俊和

5月例会

一九三〇年代後半の日ソ漁業交渉
citizenship 概念の歴史的考察

神長 英輔
大久保桂子

◆西行学 西行学会（発売：笠間書院）

〒701-0193岡山県倉敷市松島288 川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学
科 橋本美香研究室内

◇14 2023.9 A5 252p 4200円

大会講演記録

秋成『月の前』の頼朝と西行 長島 弘明
西行晩年の和歌事績—兩宮自歌合を中心に 中西 満義

大会シンポジウム記録

シンポジウム「西行と芸能」報告 五月女肇志
西行和歌と今様—『山家集』を中心に 大野 順子
能〈西行桜〉と西行の和歌 岩崎 雅彦
西行と落語・講談—落語「西行」「鼓が滝」をめぐって 中川 桂

平安本『西行物語』の特徴—独自の事跡を中心として 橋本 美香

西行伝考証稿(2)—出家より京洛周辺時代の動向 宇津木 言行

西行の「信夫の奥」について 山口 眞琴

足蹴西行 平田 英夫

西行の登蓮と明石同道説 宇津木言行

如法山に登る 西澤 美仁

雨乞いの西行 蔡 佩青

続西行歌碑を増補する(3)—湯ノ沢岳(鶴岡) 山本 章博

科研費報告書より 新潟県その他の西行伝説と『菅江真澄全集』にお
ける西行関連記事 錦 仁

西行学の名著 窪田章一郎著『西行の研究』 兼築 信行

西行文献目録

西行関係文献目録(総合版) 2011-2012年

一付録 1989-2010年補遺の追補 西行学会編

西行関係文献目録(地方文献版) 奈良県(3) 西澤美仁編

◆城郭だより 日本城郭史学会会報

〒174-8691板橋区板橋北郵便局私書箱50号 TEL03-3967-1948
年6000円 1993年創刊

◇123 2023.10 A4 6p

加賀一向一揆の拠点高尾城の発掘調査(北國新聞 2023年6月29日記
事より)

最近の城郭ニュースから1 坂本城の屋根は二色だった／首里城 礎
石搬入／多治見第三の城発見 笠原城／松倉城の搦手門は埋門構造

／田辺城 築城時石垣や虎口確認

最近の城郭ニュースから 2 松阪城番所の礎石見つかる／姫路城 江戸期の石垣確認／周山城 食い違い虎口／松江城 瓦敷き遺構発見
最近の注目される城郭図書から 岡寺良・竹中克繁・吉本明弘編『九州の名城を歩く』宮崎・鹿児島編、日本史史料研究会監修 伊藤拓也著『お酒を造る戦国の代官—小田原北条氏家臣・江川氏』、伊藤一美著『太田道灌と武蔵・相模』、高田徹編著『城郭移築建造物大全』西日本編、香川元太郎絵画・小和田哲男監修『精密復元イラストでわかった名城のヒミツ』

◆西郊民俗 西郊民俗談話会

〒112-0005文京区水道2-3-15-403 小池淳一方 年2000円 1957年創刊
<https://seikouminzoku.net>

◇264 2023.9 B5 24p

過疎集落における周期的祭礼の行方

—福島県大沼郡金山町上横田の熊野神社渡御祭(2) 滝沢 智宏

鏡涓覚書—近世会津の真言僧と陰陽道 久野俊彦／小池淳一

上野浄名院と令和の八万四千体地藏 林 京子

普美地藏を尋ねて 清水 邦彦

◆世田谷区誌研究会会報

〒158-0094世田谷区玉川3-30-5 野岸敏雄方 年2000円
<https://setagaya-kushiken.jimdofree.com>

◇2023-9 2023.9 A4 6p

博物館などで展示企画の関東大震災100年

世田谷の民話(53) 喜多見 須賀神社の棕の木は語る／喜多見地区の

無形民俗文化財 作者・桜井正信

世田谷の民話(54) 深澤の庚申様が豊作で恩返し／庚申様／せたかい

16号 庚申塔と地藏尊 北村嘉行 作者・桜井正信

◇2023-10 2023.10 A4 6p

世田谷の民話(55) 代田村の娘 あずきの音で、豊作を占う／現在の

民話のふるさと 出頭山 現在の代田6丁目北部 作者・桜井正信

世田谷の民話(56) 瀬田村 慈眼寺の和尚 夜明けの旅立ち／現在の

民話のふるさと 慈眼寺・将監山古墳 作者・桜井正信

◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会

〒157-0061世田谷区北烏山2-3-9-101 光田憲雄 TEL03-3307-2146

<https://daidougei.seesaa.net>

◇381 2023.8 A4 2p 100円

江戸・明治の生業 ランプ取替直し／パン売り／しんこ細工／新時代の太鼓売り／旧時代の太鼓売り(『絵本江戸府内風俗往来』)／鉄道馬車

◇382 2023.9 A4 2p 100円

パン売り競演 菓子パン売り／ヘルスのパン売り／大炮のパン売り
ぼんぼこな踊り 飴売り／ポアソン玉／金の入れ歯／チョコイ買いな／どぜう売り／辻占易者／納豆売り／流し／アイスクリーム売り

◇383 2023.10 A4 2p 100円

拳骨飴売り(『風俗画報』第六十九号)／浪花拳骨飴売(『風俗画報』第七十九号)

◆多摩地域史研究会会報

〒207-0033東大和市芋窪4-1735-1-103 梶原方 1991年創刊

FAX042-563-2896 <http://tamatikken.web.fc2.com>

◇155 2023.8 B5 16p

第31回大会報告

多摩地域史研究会第31回大会参加記

田中 雄大

第31回大会を終えて

梶原 勝

多摩地域ゆかりの画家—『大政奉還図』を描いた邨田丹陵先生

羽生 謙五

お知らせ 第31回大会発表要旨

◇156 2023.10 B5 12p

第115回例会報告 「小金井市平代坂遺跡の発掘調査」

(K)

小金井市平代坂遺跡の発掘調査—古墳時代の横穴墓を中心に

高木翼郎／中島将太

◆多摩のあゆみ たましん地域文化財団

〒186-8686国立市中1-9-52 TEL042-574-1360 年600円 1975年創刊

<https://www.tamashin.or.jp>

◇191 2023.8 A5 102p

《特集 資料を3Dで記録する》

文化財・歴史資料を3Dで記録する

野口 淳

国分寺市の発掘調査・文化財と3D

中野 純

| | |
|---------------------------------|-------|
| 下野谷遺跡を3Dで魅せる、学ぶ | 亀田 直美 |
| 浅川地下壕の三次元計測—戦争遺跡の保存・公開への活用に向けて | 鈴木 慎也 |
| 特集「資料を3Dで記録する」、注、リンク、3Dモデルの動かし方 | |
| 洋風建築への誘い(80) 玉川上水の流れ・橋・建物(5) | 伊藤 龍也 |
| 建物雑想記(75) 国分寺崖線の近代和風建築 大森邸 | 酒井 哲 |
| 古文書は語る(66) 世襲代官支配下の年貢徴収の仕組み | |
| —下師岡吉野家文書「年貢受取状」「年貢小手形」より | 馬場 憲一 |
| 多摩の金融史(25) 明治・大正期の奥多摩の零細銀行 | |
| —水川銀行・小丹波銀行を事例に | 早川 大介 |
| 多摩の歴史を立体視！—赤色立体地図の風景(18) | |
| 石碑のデジタル拓本—国分寺市妙法寺、川崎・伊奈兩代官謝恩塔 | 千葉 達朗 |
| 本の紹介 | |
| 青梅市郷土博物館編『生誕二〇〇年 齋藤眞指の生涯』 | 渡邊 英明 |
| 昭島市教育委員会編『小河内ダムの移転者たち—昭島がなぜ最多か』 | |
| | 沖川 伸夫 |

◆伝え 日本口承文芸学会

〒663-8184兵庫県西宮市鳴尾町1-2-18 武庫川女子大学教育学部 SE-401(高木
史人)研究室 TEL0798-31-0546 年4000円 1987年創刊 <https://ko-sho.org>

◇73 2023.9 B5 10p

新たな物語の時代に 丹菊 逸治

第83回研究例会報告

シンポジウム「危機のフォークロアと〈口承〉文化」報告 山田 巖子

第47回日本口承文芸学会大会・報告

公開講演

真下厚氏「民間説話の声と文学—奄美・沖縄民間説話の世界から」

米屋 陽一

藤井貞和氏「構造と動態」

藤久 真菜

研究発表報告

藤井倫明氏「瓜子姫の名称」、安田千夏氏「アイヌ語アーカイブ

散文説話にみるクマ神の処罰と救済」

中川 裕

蒙古貞夫氏「モンゴル民間芸能者の農耕祈願とその唱え言葉」、

山田徹也氏「家屋の精霊、死者の民間信仰と前兆の関係性につ

いて—北ロシア上トイマ地区における調査結果から」、藤田護

氏「アイヌ語口承文芸のデジタル・アーカイブ構築と語り手研

究」、内藤浩誉氏「化粧井戸に見る水の神女考—神奈川県横浜

市の北条政子伝承」、玉水洋匡氏「松尾芭蕉不明句から伝・芭蕉翁詠句への道筋—松尾芭蕉手彫りの句碑を基にして」、真鍋昌賢氏「CMに取り込まれた浪曲の声—高度経済成長における位置づけの考察にむけて」

シンポジウム 「話型論の展望」雑感

藤井 真湖

高木 史人

◆伝承文学研究 伝承文学研究会

〒167-0032杉並区天沼2-42-26-S112 徳田和夫方

◇72 2023.8 A5 114p 3000円

熊谷直実をめぐる史実と伝承

佐伯 真一

上野国船尾山の縁起と在地伝承

青木 祐子

加賀国における仏御前説話—「仏御前事蹟記」を基軸として

森 誠子

興正派本山興正寺蔵『もちうち』(持氏) 解題と考察

田口 寛

日張山青蓮寺の言説と周縁—徳田氏所蔵本『法如記』と袋中菴稱圓尼

田中 美絵

中近世における武芸(流鏑馬・牛追物)の故実伝承と諏訪信仰

二本松泰子

紹介 『虫の歌合』 絵

徳田 和夫

『嘉禎三年上書』 考

一守矢家文書の新出佚文に見る中世諏訪信仰とモリヤ伝承

間枝遼太郎

『弁の草子』 考—日光山修験の稚児哀話と「夏越」行

沢井 耐三

遺稿 令和三年度大会「閉会の挨拶」

福田晃／文責・真下厚

◆東京産業遺産学会 NEWSLETTER

〒174-0046東京都板橋区蓮根2-29-10 新蓮根団地105 多田統一方 FAX03-3964-8548／〒352-0011埼玉県新座市野火止4-8-43 柚須紘一方 FAX048-479-7490 年2000円 <https://tias3.web.fc2.com>

◇162 2023.9 A4 4p

見学記 『板橋区立郷土資料館』

文・多田統一

渋沢史料館で企画展「孫から見た渋沢栄一」

高岡市で鉄瓶の取扱い講座

文・写真 奥原一三

茨城県北茨城市の赤煉瓦建築物(2)

「JRの煉瓦造トンネル」

文・写真 八木司郎

◆練馬郷土史研究会会報

〒179-0072練馬区光が丘5-2-3-806 鎌田茂男方 TEL03-3977-3091

年2000円 1956年創刊

◇390 2023.10 A4 2p

牧野富太郎と蒲池中平氏

トモタ 佳

高札場 五月例会 新緑の秩父札所めぐり(3)、七月例会 講演「近

世初期藤沢地域の支配と有力者たち」伊藤一美氏

練馬城址と周辺寺社、カネボウ跡地を巡る歴史散歩

葛城 明彦



*植物学者で先頃 NHK 朝の連続ドラマ小説「らんまん」のモデルにもなった牧野富太郎が、1957年に94歳で亡くなるまでの30年間を、練馬区東大泉(転居当時は東京府北豊島郡大泉村土土支田)で過ごし、現在は区立の牧野記念庭園として公開されていることは大方の知るところであろう。だが、練馬区に転居した経緯については、牧野自身が自伝等で記していないこともあり、多くの研究書でも明確にはされてこなかった。

トモタ佳「牧野富太郎と蓮池中平氏」は、同園学芸員の田中純子氏が、2022年6月から2023年6月にかけて『高知新聞』Web で連載した「シン・マキノ伝」でこのことを明らかにし、今年8月に同名の単行書(北隆館)にまとめたことを紹介したものである。

田中氏が出典としたものは、『大泉農業協同組合四十年史 ふるさと大泉のあゆみ』(1990)である。それによれば、若い頃に牧野の書生であった大泉村役場書記芹沢薫一郎は、同じ役場の収入役で植物好きの渡辺徳右と二人で、しばしば渋谷の牧野宅を訪ねていたが、関東大震災の後、牧野から蔵書と標本を火災から守るために静かなところはないかとの相談を受け、芹沢の妻の実家である加藤菊太郎家の雑木林に案内したところ大変に喜んで、転居したとのことである。

地元資料から事実が検証されたことは、大変に興味深い。

トモタ氏は、現在練馬区内に居を構える、土佐国高岡郡蓮池村の庄屋中平氏の子孫宅に膨大な資料が遺されており、牧野に関するものも多くあるので、次号以降、それらに触れていきたいとしている。大変に楽しみである。

神奈川県

◆うまゆみ 日本騎射協会

〒240-0107横須賀市湘南国際村1-15-3 宮川昇方 2020年創刊

<http://mgl-f.sakura.ne.jp>

◇5 2023.8 A5 15p

最初の鞍のつくり方 諫早 直人

馬は耳を振り立てて聞く 村井 文雄

表紙 鏡一双(中国 隋～唐時代) 馬の博物館所蔵／女子騎馬俑(中国 唐時代) 馬の博物館所蔵

弓馬名人伝(3) 矢代勝介 長塚 孝

流鏑馬射法は横か前か—西行法師水走射法の一考察 宮川 昇

弓馬故実札法 武田流について 宮崎 浩行

◆小田原史談 小田原史談会

〒250-0013小田原市南町4-1-24 松島方 Tel.0465-23-8635

年3000円 1961年創刊 <http://odawara-shidan.hustle.ne.jp>

◇275 2023.10 A4 28p

碑文を生かし、伝えたい—関東大震災記念碑文の拓本を採る

話し手・星野和子

小田原史談会主催「関東大震災の記憶展」を開催しました 今日までの百年忘れていない記憶 明日からの百年忘れてはいけない記憶

劇作家・北條秀司と小田原 馬場 弘臣

UMECOだより再録 2023年度連載こらむ 記憶に残したい小田原の近代人③「片岡永左衛門」郷土史家、記憶に残したい小田原の近代人④「五十嵐ハル」

スケッチ川柳〈車中編2〉 宍戸 忠夫

小田原市民会館大ホール壁画の謎(2)

—壁画制作と建築設計の背景について 深野 彰

そば粉を担いでそば打ち修業 話し手・久津間裕行さん 文責・青木良一

「片岡日記・明治編」こぼれ話(4) 第一話 会津磐梯山破裂

磐梯山爆発と長坂地区、村民の聞き取り調査、永左衛門さんと信仰

片岡日記を読む会

◆かまくら女性史の会 Newsletter

〒248-0012鎌倉市御成町18-10 NPOセンター鎌倉気付 メールボックス26

2013年創刊 <https://kanagawajoseishi.jimdofree.com>

◇109 2023.10 A4 2p

地域婦人会とボランティア―行政が女性に期待したこと

西 弘子

シリーズ：私たちの「戦争体験」(34)

第10話「撫順での生活2」

阿部 光世

関東大震災100年

(石崎)

◆クロス 常民文化研究会

〒254-0016平塚市東八幡2-8-20 西海賢二方 年1000円 1979年創刊

◇175 2023.11 B5 6p

大山信仰とその周辺

西海 賢二

資料紹介 鹿島踊りと青年会合宿日誌について

西海 賢二

◆首都研ネットワーク 首都圏形成史研究会

〒231-0021横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館内（事務局：西村健）

TEL045-201-2169 年3000円 <http://shutokenshi.org>

◇98 2023.9 B5 4p

研究例会 第126回例会 横浜みなと博物館＋日本新聞博物館見学会

（自由見学）、テーマ 「関東大震災」研究の最前線／次回の研究例

会 第127回例会（予定）

情報ネットワーク 展示会情報！

◆年報 首都圏史研究 首都圏形成史研究会

〒231-0021横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館内（事務局：西村健）

TEL045-201-2169 年3000円 <http://shutokenshi.org>

◇12 (2022) 2023.7 A4 65p

関東大震災と帝都復興院―災害復興組織の実態と意義

伊藤 匠

関東大震災時朝鮮人虐殺犠牲者の追悼に関する一過程

―横浜における李誠七と村尾履吉の活動を中心に

金 耿昊

書 評

熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室編・発行『熊谷市史料集

7 熊谷自由民権運動史料1 「七名社」の時代」

福井 淳

谷口裕信著『近代日本の地方行政と郡制』書評

石坂 桜

首都圏形成史研究会活動報告

第118回例会 テーマ「明治43年大洪水研究の課題」

第119回例会 シンポジウム「首都圏」形成と地域政治

(首都圏形成史研究会戦後首都圏研究会)

第120回例会 テーマ「江戸から東京へ」 討論要旨

関東近世史研究会との合同例会「江戸から東京へ」 討論の概要 松本 洋幸

第121回例会 報告要旨

首都高速道路公団の運営と財務—1930～1980年代を中心に 平野実乃里

戦間期東京における市街地道路網計画と都市専門官僚制 鈴木 智行

首都圏新刊案内 茅ヶ崎市編『茅ヶ崎ゆかりの人物本』(松本洋幸)／

首都圏史叢書 8 土田宏成・吉田律人・西村健編著『関東大水害—
忘れられた1910年の大災害』

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021小田原市早川60 青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円

2003年創刊

◇80 2023.9 A5 140p 500円

禅のみち 岸 達志

小田原藩領中里村の仕法 尾上 武

小説—幕末銀板写真倶楽部 ポトゲラヒ(12) 荒河 純

続々・ボタの映画館(11) 太平洋戦争下の日本映画 平倉 正

フランケンシュタインは真夜中にシナリオライターを食う夢を見る 戸田 博史

諸々の思い出(8) 田中 豊

詩 木偶の坊 加藤 三朗

碎琢同時 石川 和彦

図表手帳〈幻想微片〉 小濠 眞宝

葛城の虎女伝説 青木 良一

車内風景 芳賀喜久雄

鉄斎の謎(6) 茂木 光春

『関東大震災被害報告』(2)

◆民具マンスリー 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL045-481-5661 年3500円

1968年創刊 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp>

◇665 (56-6) 2023.9 A5 24p 350円

町工場の人びとの道具

—工具・治具・測定具を「使いこなす」技法を事例に 加藤 英明

懐中電灯の生活文化史—闇を創り出す光 廣瀬 由子

民具短信

- マメマワシ(豆回し)のことなど 森 俊
 中国陝西省の剪紙(切り紙)文化と庫淑蘭の切り絵
 ー「クーばあちゃんの魔法の花空間～庫淑蘭切り絵展～」より 沼崎 麻矢
 日中友好館美術館 日中平和友好条約締結45周年記念展 PartⅡ「ク
 ーばあちゃんの魔法の花空間～庫淑蘭切り絵展～」
 マンスリー掲示板 常民文化ミュージアム 企画展「布と衣」
 ◇666 (56-7) 2023.10 A5 24p 350円
 《特集 瀬戸内海歴史民俗資料館 開館50周年》
 瀬戸内海歴史民俗資料館ー50年の歩みと展示室の変遷 松岡 明子
 瀬戸内地方の漁撈文化の探究 真鍋 篤行
 「船大工」「負子」国指定と収蔵資料ー歴史資料群の魅力と後継の使命 織野 英史
 地域資料館としての現状と課題 田井 静明

新潟県

◆新潟史学 新潟史学会

〒950-2102新潟市西区五十嵐二の町8050 新潟大学人文学部史学研究室内
 TEL025-262-6542 1968年創刊

◇85 2023.8 A5 76p 1000円

特集 いま『新潟県史』から学ぶ

特集にあたって

新潟県史編さん事業・前段階の状況について 山上 卓夫

『新潟県史』編さん事業の文化史的意義 菅瀬 亮司

県史編さんから県立文書館設立の経緯とその特徴について 本田 雄二

『新潟県史』についての所感と県史の意義 山沢 拓見

新発田川舟運と木崎河岸 原 直史

書評 中野目徹編『近代日本の思想を探る 研究のための15の視角』 竹田 和夫

◆ふるまち良寛てまり庵通信

〒951-8063新潟市中央区古町通2-538 TEL025-378-2202

<http://www.kokodo.co.jp/ryokankai/temarian/>

◇34 2023.9 A4 8p

《最終号》

お知らせ 当庵は令和5年9月30日(土)をもって閉庵とさせていただきます。／てまり庵展示作品

ふるまち良寛てまり庵の閉庵について

長谷川義明

てまり庵所蔵「良寛像」 坂田正次・皆川良一・早川亜美他 行灯(布

施一喜雄作)／愚童・米治一(静雲)・金子直裕

ふるまち良寛てまり庵ノート「一期一会」より

新潟西海岸公園を歩く(3)

良寛百態

高橋郁丸・画

付録 良寛遺墨シート 「旋頭歌 あきのの」

解説・小島正芳

言霊 「我ありと思ふ人こそはかなけれ 夢のうき世にまぼろしの身
を」

一期一会

新潟良寛研究会



*ふるまち良寛てまり庵は2011年10月に、新潟市中央区古町通に開設された施設で、良寛関係資料の展示、講演会、良寛紙芝居の読み聞かせのほか、良寛に心寄せて立ち寄る人々に対して新潟在住の良寛会会員による茶菓の接待など、良寛について語り合い、学び、人の輪を作る開かれたコミュニティの場として親しまれてきた。開庵以来6万人もの来庵者があったとのことである。

しかしながら、運営に当たる良寛会会員の高齢化もあって、この9月末で閉庵し、通信も第34号をもって終刊となった。街の賑わいが消えやしないかと心配になる。

◆良寛だより 全国良寛会会報

〒951-8112新潟市中央区南浜通2 北方文化博物館新潟分館内

TEL.025-222-2262 1978年創刊

◇182 2023.10 A4 16p

「中山の草庵」こしの千涯・画(出雲崎町・良寛記念館蔵)

リレーエッセイ 良寛つれづれ(31) 良寛椿が今も

黒羽由紀子

| | |
|-----------------------------------|-------|
| 良寛遺墨鑑賞(30) 漢詩「宿也奈伊津」 | 小島 正芳 |
| WBCの栗山英樹元監督が寄稿 良寛の言葉 能力発揮の指針に | |
| 第四十五回全国良寛会東京大会に参加して | |
| 寺本小鳳／磯崎宗司／阿部豊／島田英美子／安達武男 | |
| 東京大会を終えて | 東條 玉英 |
| 第四十五回全国良寛会柳津大会 開催地を紹介 | 土橋 諭 |
| 東京大学 天上大風の碑(上)―大風、未だ止まず | 立花 純子 |
| 良寛さんの養生法(上) | 櫻井 浩治 |
| 大森子陽が師事した細井平洲と良寛(下) | 齋藤 達也 |
| 若き良寛修行の地をゆく～備中玉島・円通寺(下) | 原 崇 |
| 相馬御風の良寛(31)―北大路魯山人との交流・良寛書評 | 金子善八郎 |
| 良寛を今に伝えた人びと(11) 林甕雄(みかお) | 本間 明 |
| 令和5年度役員会(5月3日：新潟市)における各地良寛会活動状況報告 | |
| 私の好きな良寛さん | |
| 良寛さんの書の魅力は?! | 金尾 誠一 |
| 「双脚等閑に伸ばす」にひかれ | 丸山 純子 |
| トピックス 加藤儷一顧問が二度目の紺綬褒賞受賞／加茂市文化会館 | |
| 良寛展示室リニューアルで企画展 | |
| 新刊紹介 「評伝 良寛 わけへだてのない世を開く乞食僧」 | 本間 明 |
| 会報紹介 すみれ第15号(巻良寛会) | 吉井 清一 |
| 良寛を訪ねて(30) 庇護者阿部家(燕市渡部)(中) | 吉井 清一 |

富 山 県

| | |
|---------------------------------------|-------|
| ◆とやま民俗 富山民俗の会 | |
| 〒930-0881富山市安養坊56甲-1 富山市民俗資料館内 年4000円 | |
| 1974年創刊 | |
| ◇100 2023.9 B5変型 38p | |
| 《『とやま民俗』一〇〇号記念特集》 | |
| 『とやま民俗』一〇〇号記念号発刊にあたって | 森 俊 |
| とやま民俗の会と私 | |
| 社会問題と民俗学―民俗調査のすすめ | 石垣 悟 |
| 善徳寺からの進物 | 浦辻 一成 |
| 「とやま民俗一〇〇号」出版を祝う | 太田 久夫 |
| 曾祖母のヒコ(曾孫)生まれ | 加藤 享子 |
| 富山民俗の会によせて | 金村 正 |

懐かしい富山の葉売り
「施」について考える日々
私と民俗学
考察・富山湾を結ぶ交流—新川と能登地方
民具の調査と収集について思うこと
江戸時代における芦峯寺嬭尊信仰の本質
—王城鎮護の嬭尊から布橋灌頂会の嬭尊へ
会報一〇〇号発行に寄せて
越中の三霊山信仰受容
樹木を覆っている雪
佐伯先生の困惑、そして私は…
合掌造りの希少価値と根本的価値
昭和十九年、五箇山の葬式

谷口 典子
晒谷 和子
島田 章代
白岩 初志
廣瀬 直樹

福江 充
藤本 武
松山 充宏
森 俊
安カ川恵子
山崎 英信
山本鐵太郎

富山民俗の会の歩み／富山民俗の会会則
民俗の窓 会務報告・文献紹介・受贈図書・新入会員
『とやま民俗』1～100号 総目次
富山民俗の会 会員名簿



* 富山民俗の会誌『とやま民俗』は1974年7月の創刊で、ほぼ年2回の刊行を維持して、100号を迎えた。

富山民俗の会は、1955年に大田栄太郎らが設立した「方言民俗談話会」と、1959年に伊藤曙覧らが設立した「民俗民話の会」(1960年に「富山民俗の会」に改称)が、1966年に合併し、大島文雄を会長に発足したものである。その後、どうした事情からか、1974年に大田を会長、大島を顧問として再発足し、今日に至っている。

この間、1973年に刊行された『富山県史 民俗編』では大田が主任となり、そのほかに多くの会員が参加した。また、国・県から「県内23地区民俗資料緊急調

査」ほかの要請を受けたり、文化庁の委託調査「越中の田の神行事」、さらには独自に幾多の集落調査を実施して会誌に特集号として発表するなど、大きな業績を残している。

100号記念号で、加藤享子「曾祖母のヒコ(曾孫)に生まれ」に、「口を祓う」や「春先に、黄色の花を家の中に入れてはいけない。火事になる」など、曾祖母から日常に聞かされていた民俗知や習俗を記録したいと思ったのが、民俗への入り口になったとあること、また、島田章代「私と民俗学」に、祖母が戦前戦後の自分の体験を話してくれたことが、民俗学への関心の根底にあると記していることなどに、学問のきっかけとはこういうことなのだと感銘を受けた。

◆北陸石仏の会会報

〒939-1315砺波市太田1770 尾田武雄方 TEL0763-32-2772

年3000円 1993年創刊 <http://odatakeo.wp.xdomain.jp>

◇70 2023.8 A4 10p

| | |
|---------------------------------|-------|
| 大國神社の不動尊堂 | 滝本やすし |
| 福井県の庚申塔めぐり 神明神社／前山庚申堂／杉杜白鬚神社／猿ヶ | |
| 堂／加茂神社／天台宗中道院／雨乞堂庚申堂／春日神社 | 堀 富子 |
| 森川榮次郎作の石仏新知見 阿耨観音／聖観音 | 尾田 武雄 |
| 立山町谷口の恵比寿さま | 平井 一雄 |
| 北陸石仏の会第64回例会報告 | |
| 一富山県上新川郡大庄村と太田村の石仏だより | 宮内 七生 |
| 北陸石仏の会第64回例会の感想 | 大久保 修 |

石 川 県

◆石川れきはく 石川県立歴史博物館

〒920-0963金沢市出羽町3-1 TEL076-262-3236 1986年創刊

<https://ishikawa-rekihaku.jp>

◇143 2023.7 A4 8p

表紙：石川県指定文化財 木造千手観音立像(部分) 平安時代(10～

11世紀) 穴水町明泉寺蔵

令和5年度夏季特別展「いしかわの霊場 中世の祈りとみほとけ」

資料紹介 明泉寺文殊菩薩像版木の再発見 岡崎 道子

学芸員コラム れきはく所蔵の考古コレクション 三浦 俊明

研究ノート 加賀藩右筆方・土師湊の金沢と江戸 吉田 朋生

◆かほく市史編さんだより かほく市史編さん室

〒929-1215かほく市高松ク42-1 かほく市高松産業文化センター 3階
Tel.076-281-3455 2022年創刊 <https://www.city.kahoku.lg.jp>

◇1 2022.10 A4 4p

「金津家文書」より「胴船一艘売券状」安政3(1856)年4月

かほく市史編集専門委員会委員長より ごあいさつ 東四柳史明

編集専門委員と刊行計画のご紹介

コラム かほく市の歴史お宝 「二ツ屋E遺跡」の発掘調査

◇2 2023.2 A4 4p

「花嫁のれん」は「覚悟ののれん」 表紙：婚礼道具「花嫁のれん」

第3回編集専門委員会を開催しました／これまでの調査から 現代部

会（戦後～現在について執筆）、寺社部会（寺院・神社について執筆）、近世部会（主に江戸時代について執筆）

特集 「民俗」調査について

『かほく市の民間伝承断片』 小林 忠雄

民俗学の調査方法とおねがい

コラム かほく市の歴史お宝

かほく市指定民俗文化財「内日角荷方節」

◇3 2023.6 A4 4p

「諏訪八幡神社社叢」

表紙：かほく市指定文化財 諏訪八幡神社社叢（多田区）

かほく市史編集専門委員会 寺社部会長 ごあいさつ 木越 祐馨

『かほく市の寺院の特徴』（木越寺社部会長の談話）／『寺院調査開始』

コラム かほく市の歴史お宝 「鎮火祭」高松額神社

◆近世史料研究 石川県教育委員会事務局文化財課近世史料編さん室

〒920-0935金沢市石引4-17-1 石川県本多の森庁舎 2階 Tel.076-255-2527
2023年創刊 <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kinsei/>

◇1 2023.3 A5

《特集 『加賀藩史料』を見直す》

前田家編輯方による近世文書調査―「加賀古文書」の分析から 塩崎 久代

前田家編輯方の能登巡回と「能登古文書」 岩田 裕斗

加越能文庫所蔵『万治以前御定書』について

―『金城古定書』・『加賀藩史料』との比較を中心に 鏑木 紀彦

加賀藩重臣山崎長徳の事績と「山崎家文書」の伝来経緯

―附 史料紹介 慶長・元和期の山崎家文書 木越 隆三

◆能美市史編さんだより 能美市教育委員会ふるさと文化財課市史編纂室
〒923-1121能美市寺町レ83-8 能美市立寺井図書館2階 TEL0761-41-5581
2023年創刊

◇1 2023.10 A4 2p

第1回能美市史編さん委員会が令和5年8月18日(金)に開催されました
史誌編纂委員会での井出市長挨拶要旨
東四柳編集専門委員長の編さん委員会での発言要旨

長野県

◆飯田市歴史研ニュース 飯田市歴史研究所
〒395-0803飯田市鼎下山538 TEL0265-53-4670
<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/>

◇126 2023.10 A4 4p

第20回飯田市地域史研究会 飯田下伊那の学制と地域社会―「人づ
くり」から「ひとなる」へ―開催しました 9月9日(土)・10日(土)
第1部「飯田下伊那における学びのあゆみ」、第2部「学びの歴史
を記録し引き継ぐ」講演「地域と学校の関係史―地域にとっての
学校/学校にとつての地域―」木村元さん(青山学院大学) 羽田 真也
飯田市歴史賞2023 受賞者コメント 論文賞 玉木寛輝「戦前期日本
の「ファシスト」の在郷軍人への接近と乖離―北吟吉と長野県下伊
那地域の在郷軍人を中心に―」(『近代日本研究』第39巻)、奨励賞
高森町飯田線開通百周年記念事業実行委員会『山吹駅 市田駅 開
業100年記念誌 飯田線駅えき町まち百年』(2023年3月)

研究紹介 明治時代の松川入地籍図 岩田 会津
リレーミニエッセイ(32)～歴史研20年を振りかえる 十年一昔 金澤 雄記
リレーミニエッセイ(33)～歴史研20年を振りかえる 厚く御礼申し上げます 坂口 正彦

◆伊那路 上伊那郷土研究会
〒399-4117駒ヶ根市赤穂11193-7 吉田保晴方 年6000円

◇800 (67-9) 2023.9 A5 40p 600円

《800号記念特集》

| | |
|----------------------------------|----------|
| 『伊那路』800号に想う | 清水 満 |
| 800号に寄せて | 山口 通之 |
| 25年後の卒業論文 | 伊藤 和也 |
| ISSN を取得している『伊那路』 | 前沢 明夫 |
| これからの『伊那路』に思う | 伊藤 修 |
| 『伊那路』800号に寄せて | 吉田 保晴 |
| 『伊那路』との関わり | 氣賀澤厚典 |
| 『伊那路』と私 | 中崎 隆生 |
| 編集委員の仕事 | 春日利比古 |
| 『伊那路』と私 | 北原 創平 |
| 『伊那路』に寄せて | 小池 悟志 |
| 『伊那路』編集委員歴35年 | 田中 清文 |
| 『伊那路』編集委員として | 塚田 博之 |
| 『伊那路』と私 | 内藤りつ子 |
| 『伊那路』編集委員として | 福澤 浩之 |
| 『伊那路』と私 | 三浦 孝美 |
| 『伊那路』と私 | 矢澤 静二 |
| 『伊那路』編集委員会の裏方を担当して | 矢島 信之 |
| 『伊那路』を振り返る一創刊号および節目の特集号より | |
| 年表『伊那路』800号までのあゆみ | 上伊那郷土研究会 |
| 図説・上伊那の民俗(73) おさんやり(箕輪町南小河内) | 三石 稔 |
| 徒然さんば(50) 仙丈ヶ岳の見える田圃 駒ヶ根市 | 絵と文・吉田勝美 |
| ◇801 (67-10) 2023.10 A5 40p 600円 | |
| 那須与一と那須三郎についての一考察(1) | 片桐 充昭 |
| 『鎌倉殿の13人』のころの春近(2) | 宮脇 正実 |
| 伊那谷のカケス一民俗の窓を通して(46) | 吉田 保晴 |
| 学校登山のともしびを消さないで | 伊藤 一幸 |
| 「与地山寺遺跡」の名称について | 伊藤 和也 |
| 山下雪山筆「内田文右衛門肖像」 | 福澤 浩之 |
| 図説・上伊那の民俗(74) 二十二夜様(伊那市高遠町鳥畑) | 三石 稔 |
| 徒然さんば(51) 創造館(旧上伊那図書館) 伊那市 | 絵と文・吉田勝美 |

◆伊那民俗 柳田国男記念伊那民俗学研究所

〒395-0034飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館内 TEL0265-22-8118

年3000円 1990年創刊 <https://inaminkenhome.blogspot.com>

◇134 2023.9 B5 8p

花火筒を担いで基層／田切日方磐神社の奉納煙火(2016年、岡庭撮影)

先人の旅をなぞって旅をするということ

| | |
|-----------------------------------|-------|
| 一つげ義春と宮本常一、そして菅江真澄 | 下平 武 |
| 報告 第6回伊那民俗研究集会『死・供養と風流芸能』 | 米山 梓 |
| 報告 特別例会 民俗学講座第1回 「「結び」の民俗」(7月15日) | 今井 啓 |
| 報告 民俗探訪会 新野の盆踊り(うら盆)見学会 | 松上 清志 |
| 報告 6月通常例会 櫻井弘人会員「遠山霜月祭の変化と変容」 | 近藤 大知 |
| 表紙写真解説 飯島町田切日方磐神社の奉納煙火 | 岡庭 圭佑 |

◆信濃 信濃史学会

〒399-0036松本市村井町南1-28-35 年10200円 TEL0263-58-1213

<http://www.shinano-shigakukai.jp>

◇884 (75-9) 2023.9 A5 96p 1150円

《考古学特集 追悼 桐原健氏》

追悼 桐原健氏

| | |
|---------------------------------|-------|
| 追悼 平出遺跡と桐原健先生 | 小林 康男 |
| 桐原健先生と長野県史考古資料編の編纂 | 宮下 健司 |
| 桐原健先生の縄文時代研究—土偶研究を中心に | 綿田 弘実 |
| 五〇年来の宿題 | 市澤 英利 |
| 信州の古墳との関りと桐原先生 | 西山 克巳 |
| 桐原先生の二つの教えと「山地居住人」 | 原 明芳 |
| 人生と学問の師 桐原健先生桐原先生の二つの教えと「山地居住人」 | 市川 正夫 |
| 七世紀以前の奈良井川西岸 | 直井 雅尚 |

大室古墳群調査に忘れざる、戦後の分布調査と後藤守一・明治大学教

| | |
|----------------------------|-------|
| 授の調査—永野豊三郎を継いだ栗林紀道と赤塩都住の功績 | 三上 徹也 |
| 大型堅穴建物から古代社会を考える | 小平 和夫 |
| 安曇郡成立期の考古学的研究 | 百瀬 新治 |

◇885 (75-10) 2023.10 A5 106p 1150円

《特集 総会記念講演会・追悼 上條宏之氏》

| | |
|-----------------------|------|
| 記念講演 長野県の歴史公文書の管理を考える | 瀬畑 源 |
| 記念講演 意見交換会 | |

福島正樹／瀬畑源／青木弥保／田玉徳明／小平千文／山口通之

追悼 上條宏之氏

聞き取り 上條宏之氏

県政史・教育史・県史・満州開拓史に関わって

| | |
|-----------------------|-------|
| 論文 中近世の鷹書に見える諏訪の偈について | 二本松泰子 |
|-----------------------|-------|

追悼文

| | |
|----------------------------|-------|
| 『富岡日記』にもとづく上條宏之学長の実践 | 横山 憲長 |
| 上條宏之先生を偲んで | 柳澤 哲 |
| 偉大な歴史学者に師事して | 酒井 春人 |
| 信大教授時代の上條先生 | 渡辺 知弘 |
| 上條先生のご経験を活かす | 後藤 芳孝 |
| 書籍紹介 上條宏之著『クロムウェルの木下尚江の誕生』 | 青木 教司 |

◆長野県民俗の会通信

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円

<http://nagano-minzoku.chu.jp>

◇297 2023.9 B5 8p

| | |
|-----------------------------|-------|
| 倉石忠彦先生を偲んで | 福澤 昭司 |
| 子ども組の退会時期—小諸市御影新田の事例 | 田澤 直人 |
| 書誌紹介 太田真理著『松本平の御柱祭』 | 木下 守 |
| 葉書でつぶやくコーナー 透析室の応援—透析室春秋(3) | 倉石 忠彦 |
| 訃報 倉石忠彦氏 | |

岐 阜 県

◆岐阜市歴史博物館だより

岐阜市歴史博物館 〒500-8003岐阜市大宮町2-18-1 岐阜公園内 TEL058-265-0010／加藤栄三・東一記念美術館 〒500-8003岐阜市大宮町1-46 TEL058-264-6410 1985年創刊

◇115 2023.10 A4 8p

日月龍文蒔絵仏胴具足

安土桃山時代 大阪城天守閣蔵 伝後藤基次所用

特別展「天下統一—信長・秀吉・家康と岐阜—」

加藤栄三・東一記念美術館「加藤栄三・東一 日展出品作と下絵」

加藤栄三・東一記念美術館「はっ・とび2」

研究ノート 岐阜市南部地域の古墳について 井川 祥子

館蔵資料紹介 令和4年度 新収蔵作品 山本丘人 作「瀑」 号数：

38.8cm×52.2cm 制作年：不詳 形態：額装

静岡県

◆静岡県近代史研究会会報

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室
年4000円 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇540 2023.9 A4 4p

9月例会レジュメ 大杉栄という生き方—虐殺100年を迎えて 大杉 豊
歴史否認の時代のなかで 小池 善之

◇541 2023.10 A4 4p

記念講演会

証言からたどる関東大震災朝鮮人虐殺事件—東京を中心に 西崎 雅夫
2013年からの墓前祭を終えるにあたって 小池 善之
会誌第48号を発刊しました！

◆静岡県地域史研究会報

〒412-0043御殿場市新橋1891-1 厚地淳司気付 年4000円 2011年創刊

◇250 2023.9 B5 4p

会告 第42回総会 記念講演「浜松城下町にみる都市空間の形成と変化—東海道の城下町を地図から考える」京都大学教授 山村亜希氏
例会報告要旨

6月例会「浜松荘を一八〇年支配した三河吉良氏—新編西尾市史を讀もう！」 小林輝久彦

7月例会「松平信康事件簿再論」 本多 隆成

愛知県

◆愛知県公文書館研究紀要

〒460-0001名古屋市中区三の丸2-3-2 愛知県自治センター内 TEL052-954-6025
2023年創刊 <https://kobunshokan.pref.aichi.jp/>

◇1 2023.3 A4 123p

創刊にあたって 田中 宏之

公文書館研究紀要の発刊について 大塚 英二

特別寄稿 「天孫本紀・尾張氏系譜」についての若干の考察 福岡 猛志

永正年間の戸田氏と今川氏 松島 周一

創業期拳母自動車工場等への電力供給問題 浅野 伸一

滋賀農工調和への道：東三河地域の戦後行政史 山田 健

| | |
|----------------------------------|-------|
| 安食荘の里配置と現地比定に関する試論 | 高橋 敏明 |
| 江戸時代後期三河における東本願寺派宗学体制の一考察 | |
| 一暮戸会所や三河護法会の動向に触れて | 遠山 佳治 |
| 戦前愛知県の県立図書館建設構想 | 米井勝一郎 |
| 近世の豊川水運に関わる複数の「通船掟書」について | 田中 博久 |
| 愛知県立第二中学校『校友会報』第二十四号(大正五年三月)について | |
| 一尾崎士郎「本校を出づるに臨みて諸子に告ぐ」の発見 | 倉橋 真司 |
| 歴史資料講演会抄録 | |
| 尾張藩主の行方 政務と儀式一名古屋城の生活を垣間見る | 深井 雅海 |
| 徳川林政史研究所と所蔵史料 | |
| 一戦前期における徳川義親の活動と関連づけて | 藤田 英昭 |
| 安政東海地震における尾張徳川家の救済活動 | 石川 寛 |
| 愛知県公文書館の歩み | 山内 秀樹 |
| 県史編さんの歩みと県史収集資料 | 清水 禎子 |

◆郷土文化 名古屋郷土文化会

| | |
|--|-------|
| 〒466-0064名古屋市昭和区鶴舞1-1-155 名古屋市鶴舞中央図書館 | |
| TEL052-741-9822 年3000円 1946年創刊 | |
| ◇240 (78-1) 2023.9 A5 102p 1500円 | |
| 三巻本『武功夜話』における用語について | 松浦 由起 |
| 熱田新田西国三十三番観音の謎 | 安立 満裕 |
| 『朝林』を読む(1)一史料紹介と「赤穂事件」関連記事 | 鶴飼 尚代 |
| 名古屋の風商い一名古屋の風と桜井の風 | 鬼頭 慈都 |
| 名古屋を走る市バスの歴史一〇〇年!? 一干種区の昭和史ものがたり | 大島 清和 |
| 愛知の俳句(2)一三河の俳誌『白桃』をもとにして | 大野 哲夫 |
| 『郷土文化』のバックナンバーの目次を名古屋市図書館デジタルアーカイブサイト「なごやコレクション」にて閲覧できます | 事務局 |
| 令和5年度理事会報告 | 事務局 |

◆まつり通信 まつり同好会

| | |
|--|------|
| 〒458-0006名古屋市緑区細口3-161 田中青樹方 TEL052-877-3497 | |
| 年5000円 1961年創刊 | |
| ◇627 (63-5) 2023.9 A4 8p 600円 | |
| 表紙写真の言葉 大津曳山祭 滋賀県大津市 10月第1土・日曜日 | 須藤 功 |
| おわら風の盆 | 須藤 功 |
| 東京・檜原村の式三番 | 中村 規 |

滋 賀 県

◆湖国と文化 びわ湖芸術文化財団

〒520-0806大津市打出浜15-1 TEL077-523-7146 年2520円 1977年創刊

<https://www.biwako-arts.or.jp>

◇185 (47-4) 2023.10 B5 88p 600円

表紙 修理中の『国清寺外諸寺求法惣目録』

撮影・谷本吉有基／デザイン・神戸鶴亀本舗石井章

《特集 世界の記憶『円珍』》

プロローグ

円珍文書から広がる世界

福家 俊彦

観る 見えない世界を照らす

—『三弥勒経疏』『国清寺外諸寺求法惣目録』修理・調査 編集室(石井行雄)

苛烈な歴史、奇跡の寺宝継承

園城寺における「智証大師文書」の伝来

下坂 守

「世界の記憶」とは その目指すものと今回の登録について

藤田 励夫

書から見えた「円珍」 東博の円珍文書を味わう

恵美千鶴子

古文書から見えた円珍—最澄、円仁への深い思い

井上 優

最澄・円仁・円珍—日本天台宗の源流

亀田 隆彦

円珍時代の日本の民際交流

井上 満郎

円珍文書にみる日中民間交流

編集室

インタビュー 湖と生きる 結果は百年後。継承の現場を育てる

文化財修理工房「坂田墨珠堂」社長 坂田さとこさん

文・三宅貴江／写真・谷本吉有基

近江の懐(26) 今津

加藤賢治／石川亮

歴史の玉手箱(29) 大嘗祭と滋賀県

岡本 和己

近江の黎明 相谷熊原遺跡から探る縄文の世界(9)最終回

相谷熊原遺跡から探る縄文の世界

松室 孝樹

湖国のつなぎて—地域おこし協力隊探訪記(6) 加藤竜馬さん(米原市)

文・写真 船崎桜

カラーグラビア

宮本貞治さん 人間国宝に

編集室

琵琶湖センス・オブ・ワンダー 湖と人が織りなす歴史と今(11)

水面下に広がる大草原 文・琵琶湖博物館 芳賀裕樹／写真・オザキマサキ

祭の美 祈りのかたち(19) ずいき神輿(野洲市 御上神社)

文・写真 川島朱実

万葉の旅人(18) 石部山 文と曲・林博通／画・鈴木靖将
 食まなび館へようこそ！(2) 今号のメイン料理 ジャがたらごはん
 堀越昌子・肥田文子・中村紀子・鳥本登志子／写真・浅井千穂
 湖北文化事情 高齢化・コロナ禍・余呉文化ホール閉館…
 長浜の文化芸術と共に 磯崎 真一
 ぶらり近江はっけん伝(26) 大津 岸野 洋
 トムさんの日野暮らし(13) 接客ロボット トム・ヴィンセント
 北から南から
 伝統守る湖南の正藍染 泉 千恵
 「田圃のバトン」未来に誇れる農業営む 長澤由香里
 参道の木陰でゆったり「近江神宮マルシェS」 町田 雅子

◆彦根城博物館だより

〒522-0061彦根市金亀町1-1 TEL0749-22-6100 1988年創刊
<http://www.hikone-castle-museum.jp>

◇142 2023.9 A4 4p

特別展 大名と菓子一百菓繚乱

駿河屋伝来菓子木型・菓子絵手本「蟠桃」和歌山市立博物館蔵

展示案内 企画展 展示室1 関東大震災から100年 災害と井伊家

伝来資料、特別展 展示室1・2 大名と菓子一百菓繚乱一

研究余録 金亀玉鶴

菊に魅せられた幕末の女性画人「菊満香」なる吉村満香 高木 文恵

京 都 府

◆京都民俗 京都民俗学談話会

〒603-8301京都市北区紫野北花ノ坊町96 仏教学歴史学部 八木透研究室気
 付 TEL075-491-2141 年4000円 1984年創刊

◇41 2023.7 A5 273p

《京都民俗学会設立40周年記念号》

巻頭言 「京都民俗の四〇年」に寄せて 八木 透

第一部 民俗学における『家族』研究の五〇年

一関西の研究者の眼差しを中心として

趣旨説明

民俗学における家族研究の五〇年 八木 透

「地域」における村と家の関係性 森本 一彦

竹田聰洲の家・同族論と常民性

一丹波と東北の事例から考える

家族のゆくえと民俗学—近代家族論を中心に

コメント

家族をめぐる伝統と現在—シンポジウムを拝聴して

二一世紀の家族研究のために—生活史と学校教育と

婚姻・家族研究におけるライフヒストリーの可能性

類型論からライフヒストリー研究へ

現代民俗学からのコメント

第二部 未来の歴史民俗学

趣旨説明

民俗学と現代民俗学

関西の民俗学の流れと現代民俗学

歴史民俗学の実践—「村の日記」研究会の活動を通して

コメント

ディスカッション

第三部 「京都民俗」の四〇年

趣旨説明

京都民俗の思い出～草創期を振り返って

京都民俗のあゆみ

「京都民俗」の“これまで”と“これから”

初期京都民俗と京大・近衛ロンド 一九八二～一九八九

京都民俗学談話会成立の頃

新たな萌芽—独自の『学風』の形成に向けて

大野 啓

安井真奈美

市川 秀之

菊地 暁

道前美佐緒

大黒久美子

島村 恭則

市川 秀之

福田アジオ

市川 秀之

柿本 雅美

東城義則／渡部圭一

司会・村上忠喜

橋本 章

八木 透

東城 義則

内田 忠賢

村上 忠喜

政岡 伸洋



サードプレイスとしての京都民俗：

| | |
|--------------------|-------|
| 四半世紀を迎える常連からの眺め | 土居 浩 |
| 民俗学の祝祭性——一九九八年の記憶 | 島村 恭則 |
| 若手研究者からみた京都民俗学会の魅力 | 三隅 貴史 |
| パネルディスカッション | |

巻末資料 京都民俗学会年表／談話会報告一覧

*京都民俗学会創立40周年を記念したシンポジウムの記録を収録した記念号である。

その第三部「京都民俗」の四〇年」によれば、同会は1982年10月に、上田正昭、梅棹忠夫、五來重、林屋辰三郎らの賛同を得て、柴田實を会長に、京都民俗学談話会の名で発足した。談話会の名のとおり、いつ脱線するかも分からないような状態で始まり、非常にドタバタしたが、あちらこちらから先生がしゃべりにきてくれたから、非常に面白かったとのことである(村上忠喜「京都民俗学談話会成立の頃」)。それだけに、2005年に京都民俗学会に改称する際には、いろいろな意見があり、反対意見も多かったという。

1990年代に京都で学生として暮らし、その後、談話会に関わるようになった土居浩氏は、建物・まち・コミュニティのクリエイティブディレクター大西正紀氏の、サードプレイス論(<https://note.com/masakimosaki/n/nc5bfa1a71342>)から、「常に『新参者』を快く受け入れる『常連』がいて、いつも心地よい空間をつくる」「明るく遊び場的な雰囲気を持っている」を引用して、京都民俗そのものであると語っている(「サードプレイスとしての京都民俗：四半世紀を迎える常連からの眺め」)。

そのほかの会員の発言からも、会の魅力が伝わってくる。こうした学問の自由な雰囲気は、いかにも京都らしいといえるのではなかろうか。

会誌は1984年2月に創刊され、ほぼ年刊を維持して今日に至っている。

◆史迹と美術 史迹美術同友会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入西大路町146 中西ビル内

TEL.075-462-4292 年8000円 1930年創刊 <https://www.shibikai1930.com>

◇937 (93-7) 2023.8 A5 28p 918円

| | |
|-------------------------|-------|
| 五輪塔雑攷 経典に見る五輪図形 | 加藤 繁生 |
| 赤膚焼恵山銘花器をめぐって(5) | 村上 泰昭 |
| 第1106回例会 金戒光明寺と塔頭西雲院を巡る | 加藤 友規 |

◇938 (93-8) 2023.9 A5 32p 918円

| | |
|---------------------------|-------|
| 九州の石塔調査報告 11. 相良寺角宝塔々身(下) | 佐藤 誠 |
| 面論研究(3) 『画筈』の研究—現代語訳付(11) | 寺本 健三 |

絵葉書に見る高野山不動堂古写真
第1107回例会 醍醐寺(上醍醐)の文化財を訪ねる

木下 浩良
吉村 龍二

◆都藝泥布 京都地名研究会通信

〒610-1126京都市西京区大原野上里男鹿町14-5 入江成治方 FAX075-331-3431
年3000円 2002年創刊 <https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei>

◇82 2023.9 A4 8p

第61回地名フォーラム開催案内 研究発表1 伝えたい残したい古典
の宝庫『井出百首』第3巻～ 抄録 小川榮太郎(本会会員)、研究
発表2 頼政と平等院・扇の芝 小寺慶昭氏(本会会長)

2023年度地名ウォークⅡご案内 京都西山散策 第二弾一長岡京と西
国街道周辺の地名を歩く 案内人・鈴木知怜氏(予定)(長岡京市埋
藏文化財センター職員)

平安京を偲ぶ町名(7) 中務町(なかつかさちょう)

清水 弘

「青谷」地名考(4)一城陽市南端の旧村名

岩田 貢

芭蕉の発句と地名(3)

小寺 慶昭

本居宣長「在京日記」寸見

梅谷 繁樹

幕末の座敷牢について

梅谷 繁樹

第1回「町名について考える会」開催報告

大 阪 府

◆泉佐野の歴史と今を知る会会報

〒596-0845岸和田市阿間河滝1425 井田寿邦方 TEL0724-28-0204 年1200円

◇429 2023.9 B5 12p

史料紹介 山本家文書 幕末の情報収集(2) 井田 寿邦

天誅組と辻戸吉兵衛 話者 高橋政枝・松本八重子/聞き手 北山理

十輪庵百観音と観音堂 話者 中山正作/聞き手 北山理

史料紹介 泉州の寺社(27) 佐野村九社関係文書 黒田家文書イ38の

5 春日大明神家根葺替願 文化九(一八一二)一月/藤田家文書イ

38の2 恵美須明神葺替願書 寛政九(一七九七)年一月

◇430 2023.10 B5 16p

根来寺権力を紀北の城館から考える一城館分布・城館構成を踏まえて

白石 博則

史料紹介 山本家文書 幕末の情報収集(3) 二 書状の写(続) 井田 寿邦

史料紹介 泉州の寺社(28) 佐野村九社関係文書 藤田家文書イ38の

14 心得書 文政九(一八二六)年八月／藤田家文書イ38の7 乍恐
御願奉申上候 文政三(一八二〇)年三月

◆大塩研究 大塩事件研究会

〒530-0053大阪市北区末広町1-7 成正寺内 TEL06-6361-6212 1976年創刊

◇89 2023.9 A5 104p

この言葉(36) 慮らざれば胡んぞ獲ん 為さざれば胡んぞ成らん

写本『咬菜秘記』・『酩醒録』、埼玉にあり(中) 内田 満

大塩と私(24) 香川県多度津町弘濱文庫 塩野てるみさんに聞く

聞き手 藪田貫・内田正雄・松浦信輝・土井裕子

大塩氏一族の歴史から見た大塩平八郎のルーツと「丸に揚羽蝶」 大塩 祥三

史料翻刻 大塩の乱関係資料を読む部会テキスト「浪華騒乱 全」(2)

大塩の乱関係資料を読む部会

会員だより 「蔵の片隅で見つかった大塩さんの屏風」 北野奈津子

本会藪田貫会長の著書 中公新書「大塩平八郎の乱」に関する感想・

意見投稿

洗心洞通信(77) 大塩に関する書籍紹介

小松重男『幕末遠国奉行の日記 御庭番川村修就(ながたか)の生涯』

松浦 信輝

石川九楊『思想をよむ、人をよむ、時代をよむ』

松浦 信輝

菱岡憲司『大才子 小津久足一伊勢商人の蔵書・国学・紀行文』 小森己智子

◆近畿文化 近畿文化会

〒543-0001大阪市天王寺区上本町6-5-13 上本町YUFURA 7階

TEL06-6775-3686 年2200円 <https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/bunka/>

◇886 2023.9 A4 8p 300円

太安萬侶墓誌からみた奈良時代の葬地—太安萬侶没後一三〇〇年 前園実知雄

中世の本堂 新しい和様の創造 矢ヶ崎善太郎

◇887 2023.10 A4 12p 300円

「百舌鳥古墳群」築造の時代 白神 典之

進化する平城宮跡—のこった奇跡・のこした軌跡 岩戸 晶子

馬見古墳群と牧野古墳 関川 尚功

謎多き女帝 皇極(斉明)天皇 梅前佐紀子

◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒573-0084枚方市香里ヶ丘6-4-9 上遠野浩一方 年4000円 1995年創刊

<http://kodaishinoumi.sakura.ne.jp/kodaishi/>

◇110 2023.9 A5 64p 1500円

巻頭言 『シンボジウム日本の神話』を読んで
古代天皇制成立期の正統論的根拠「天神地祇」

河越 尚司

三浦 啓伯

任那割譲一虚構か

渡部 正路

アンデス通信(63) ペルーの児童労働問題をきっかけにして

市木 尚利

へそ曲がり「チャット GPT」考

山下 輝幸

「伝茨田堤址」は茨田堤址か

上遠野浩一

飛鳥時代の仏像の寸法についての一考察

山下 輝幸

◆城だより 日本古城友の会

〒577-0044大阪市西成区玉出中2-11-28 平川大輔方 TEL06-6652-4511

<http://www.kojyo-tomonokai.com>

◇657 2023.9 B5 22p

近江 甲賀の城を訪ねる(10月・第720回例会) 今回の見どころ

8月・第718回例会報告 訪問先: 近江 草津宿・鈎の陣跡 報告者・水品弘樹
村岡山城〜一向宗が築き柴田氏らが改変した城 二瓶 久美

別冊(B4 7頁) 第719回 撰津 山下城(獅子山城・向山城)を訪ね

る 担当幹事: 坂本昇・水品弘樹

◇658 2023.10 B5 20p

若狭 後瀬山城・小浜城を訪ねる(11月・第721回例会)

今回の見どころ

9月・第719回例会報告 訪問先: 撰津 山下城

担当幹事: 坂本昇・水品弘樹

報告者・水品弘樹

越後村上城と慶長出羽合戦の城を訪ねて(前編)

宮島 茂

別冊(B4 8頁) 第720回 近江 甲賀の城を訪ねる

担当幹事: 藪西旭・森田又一

◆つどい 豊中歴史同好会

〒560-0054豊中市桜の町4-6-27-208 小川滋方 月1000円

1988年創刊 <http://toyoreki.way-nifty.com>

◇418 2023.8 B5 16p

弥生国家論の試みー二十一世紀の私たちへ

寺沢 薫

新沢千塚ほかの遺跡を訪ねる

木村 幸子

◇419 2023.9 B5 16p

- 正倉院宝物「三彩小塔」再考 高橋 照彦
 新沢千塚ほかの遺跡を訪ねる(補遺)
 一宣下天皇の陵墓と欽明天皇の陵墓 西川 寿勝
 ◇420 2023.10 B5 18p
 聖徳太子墓と叡複寺北古墳(上) 荊木 美行
 城陽市の遺跡を訪ねる 久米 健児

◆ヒストリア 大阪歴史学会

- 〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科
 古市晃研究室気付 1951年創刊 <http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>
 ◇299 2023.8 A5 118p 900円
 平安初期の貧窮者救済政策と富豪層 森田 大貴
 都市計画に伴う歴史意識の動揺、衝突、再構築
 一一九二〇年代の神戸市を事例に 吉田 隼人
 豊臣期大坂城本丸の復元について
 一スクリュウエイト貫入試験の成果から 市川創・仁木宏
 わたしたちの文化財 史跡大坂城石垣石丁場跡 東六甲石丁場跡 山田 暁
 報告
 日本学術会議を巡る日本歴史学協会の声明への賛同について 大阪歴史学会
 二〇二三年度宮内庁書陵部との懇談 企画委員会
 2022年度大会・総会の記録 二〇二三年度委員会
 委員会報告 第9回／第10回 市 大樹
 ◇300 2023.10 A5 347p
 《三〇〇号記念特集 大阪地域史研究の成果と可能性》
 三〇〇号記念特集「大阪地域史研究の成果と可能性」について 大阪歴史学会
 前期難波宮と飛鳥宮、藤原宮 績山 洋
 中世土器の生産と流通—中世前期畿内を中心として 藤本 史子
 大和川付け替えの研究成果と小学校学習への活用 安村 俊史
 大化前代難波研究の現在地—高津宮・堀江・難波津・大郡・客館 西本 昌弘
 古代中・南河内地域における王権の進出と水陸交通網 越智 勇介
 行幸からみた天皇家産—元正天皇と和泉宮、光仁天皇と交野 柳沢 菜々
 藤原種継の王法と仏法—『延暦僧録』『真木尾居士伝』を読み解く 山本 幸男
 中世前期畿内武士の地域的展開とその特質 生駒 孝臣
 中世の四天王寺と都市天王寺 大村 拓生
 大阪の中世荘園史研究をめぐって—和泉国日根荘を中心に 廣田 浩治
 「戦国仏教」としての「大念仏宗」 大澤 研一

| | |
|---------------------------------|-------|
| 旧家の世界―「政事」・「家事」・「文事」 | 藪田 貫 |
| 近世大阪の都市社会史と身分制―周辺村方史料から照射する | 塚田 孝 |
| 享保三年における大和川・新大和川・石川筋の支配替をめぐる | 村田 路人 |
| 大阪西淀川地域の工業地化と公害被害者・住民の意識―体験者の語り | |
| を生かした戦前・戦後初期西淀川公害形成史の試み | 小田 康徳 |
| 大阪地域史研究と在日朝鮮人 | |
| ―「在阪朝鮮人史」を「住民史」を接続する | 伊地知紀子 |
| 関西の医療社会史研究 | 高岡 裕之 |
| 大阪の女性史研究 | 石月 静恵 |
| 歴史資料をめぐる現代的諸問題―尼崎市を中心に | 河野 未央 |

兵庫県

◆会報むろのつ 「嶋屋」友の会

〒671-1332たつの市御津町室津457 たつの市立室津海駅館内 TEL079-324-0595
年3000円 1997年創刊

◇33 2023.9 B5 48p

表紙写真の説明 ケンベル著『日本誌』（たつの市教育委員会蔵） 柏山 泰訓
誌上インタビュー 日本の英語教育 大津由紀雄
特集 日本人と英語

英語教育論争史からみた英語と日本人 江利川春雄

日本の英語教育―どう評価し、どんな未来を描くか？ 寺沢 拓敬

ある小学校の英語教育 公立小学校教諭

A L T と英語教育 編集部

日本人と英語―文献案内をかねて 柏山 泰訓

博物館遊歩(33) 国立民族学博物館 柏山 泰訓

町並み探訪(32) 高瀬 八木 雅夫

アボシ、そしてハリマ(3) 室津道について・後編 菅野 稔博

広告世相視 メルちゃん 一言居士

◆家系研究協議会会報

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921
年5000円 2002年創刊 <https://www.kakenkyou.org>

◇85 2023.8 B5 8p

築山殿事件 馬原 浩一

家系研究協議会 令和5年度 総会及び春の例会報告

「近江源氏・佐々木氏の起源と初期」 宝賀寿男(本学会会長) (馬原)
家系研究協議会のホームページがリニューアルしました

◆嶋屋友の会だより 「嶋屋」友の会

〒671-1332たつの市御津町室津457 たつの市立室津海駅館内 TEL079-324-0595
年3000円

◇77 2023.9 A4 4p

特別展「近世 湊まち室の賑わい」のご案内

「室の湊まちあるき」について

室津よもやま話(43) 室津の町名(2)

柏山 泰訓

カタカナ語あれこれ マジック

柏山 泰訓

かえりみち 播磨室津の革細工

新宮 義哲

◆史料ネット NEWS LETTER 歴史資料ネットワーク

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内 TEL078-803-5565
年1000円 <http://siryo-net.jp>

◇97 2023.7 A4 12p

表紙 2022年11月、「山上家文書を読む会」有志によるフィールドワ
ーク(杭全神社近辺にて)／2023年4月に再開された対面作業の様子

巻頭言 史料ネットとの出会い

下箱石 響

地域の「日常」と資料保存—高知資料ネットの活動

楠瀬 慶太

第8回全国史料ネット研究交流集会在開催されました

参加記 「史料ネット」を読む

成田 まお

第16回地域史卒論報告会

地域史研究を通じて得たこと

小泉 敦司

ふり返り、背筋をのばす

依田ひかり

卒業論文の執筆過程を振り返って

谷野 良

報告会までの道程を振り返って

中橋 美月

大阪市平野区・山上家文書の整理作業について

—「山上家文書を読む会」の節目によせて

跡部 史浩

栃木県佐野市の水損史料のその後

小野塚航一

◆西宮文化協会会報

〒662-0974西宮市社家町1-17 西宮神社内 TEL0798-33-0321
<https://nishinomiya-ebisu.com/bunkyo/>

◇666 2023.9 B5 8p

十月行事 文化講演会「十日えびすの海からの早詣り—西鶴『日本永代蔵』より」 関西学院大学文学部教授 森田雅也氏

十一月行事 秋の見学会

バスツアー 和泉市久保惣記念美術館と岸和田散策

西宮万葉風景だより(6) 甲山森林公園 岡本三千代

六月行事 文化講演会「秦森康屯と西宮ゆかりの作家たち

一九五〇年代～一九九〇年代」 講師：枝松亜子氏 江寄健一郎

ひょうご能『船弁慶』のご案内 河内 厚郎

会員活動報告 三年ぶりに復活！『福男が走る開門行事』 中村宏・山本純子

◇667 2023.10 B5 8p

十一月行事 秋の見学会 バスツアー 和泉市久保惣記念美術館と岸和田散策

西宮の橋梁—西宮歴史調査団の調査成果(7)

明治期の甲東村の石橋 早栗佐知子

七月行事 文化講演会「津門大塚町遺跡の発掘調査について」

講師：池田旭氏 江寄健一郎

特別陳列「西鶴没後三三〇年記念 関西学院大学図書館西鶴貴重本展」

のご案内 森田 雅也

第三回 西宮・伝統芸能の夕べ 狂言『夷毘沙門』を開催しました 事務局

会員活動報告 『戎論文(約一万八千字)』を収録しCD化 中村 宏

◆東播磨 地域史論集 東播磨地域史懇話会

〒675-1224加古川市平荘町上原298-1 山本祐作方 TEL079-428-1055

1994年創刊

◇29 2023.7 A4 34p

東播磨のため池と伝説VI—爆弾池〈明石市と宇佐市〉 森本 眞一

明治25年の加古川大水害について—「荒鹿瀬再興記」をもとに 山本 祐作

加古川市内の三基の石棺仏と廃仏毀釈 中村 和男

加古川下流域における横穴式石室文化の導入時期について 上月 昭信

◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中印刷出版内 TEL078-871-0551

年3000円 1962年創刊

◇360 (62-5) 2023.10 A5 49p 600円

神戸史学会賞に大槻守氏 落合重信賞に田中早春氏 (大国)

特集 六甲山の地図史と地名の謎

| | |
|--------------------------------|-------|
| 登山用地図で辿る六甲山の歴史 | 前田 康男 |
| 神戸居留地外国人たちが名付けた六甲登山道 | 中村 三佳 |
| 六甲山の地名はどう命名されたのか―「地名選定委員会」の功罪 | 森地 一夫 |
| 「ガベノ城」山名考 | 柴田 昭彦 |
| 門崎砲台保存と活用を要望 南あわじ市の国内最大のドーム型砲台 | |

和歌山県

◆紀南・地名と風土研究会会報

〒646-0004田辺市上万呂549-3 浅里耕一郎方 TEL0739-25-3794
年2000円 1985年創刊

◇63 2023.10 B5 20p

表紙 明治中頃上野山より田辺湾を望む(水島春水画)

〈古の田辺・熊野より(あおい書店)〉

| | |
|----------------------|--------|
| 田辺の地名を歩く(1) | 浅里耕一郎 |
| 由良町の「三尾川(みおがわ)」という地名 | 玉置 芳男 |
| 「いち」の地名が示すもの | 田中 伸幸 |
| 遠洋航海「あさま日報」―震災下の百人一首 | 吹揚 克之 |
| 江戸時代の港案内記―東海船路道中記 | 桑原 康宏 |
| 地名に刻まれた津波 | 浅里耕一郎 |
| 編集後記―学んだことあれこれ | 編集部(あ) |

◆熊野情報 熊野歴史研究会

〒647-0011新宮市下本町2-2-1 新宮市教育委員会文化振興課 山本殖生
TEL0735-23-3368 年3000円

◇230 2023.9 B5 2p

世界遺産 高野山信仰の世界を探る／高野山で奥州からの七度参詣碑
を探そう／北川央先生の歴史講演会 「天守建築と城跡整備―大阪
城の事例紹介と近年の各地の課題―」／『熊野歴史研究』25号のPR
を！／事務局より

岡山県

◆岡山地方史研究 岡山地方史研究会

〒700-0013岡山市北区伊福町2-16-9 ノートルダム清心女子大学文学部
久野研究室気付・小野功裕 TEL086-252-2482 年1500円 1986年創刊

<http://historyokayama.s1009.xrea.com>

◇160 2023.9 B5 30p

史料紹介 備前の医師佐藤陶崖・陶亭の間引き教諭書 沢山美果子

2022年12月例会 久野洋著『近代日本政治と犬養毅』合評会

「地方」から再構築される日本近代政治史の姿―書評・久野洋著

『近代日本政治と犬養毅 一八九〇～一九一五』 中川 未来

久野洋著『近代日本政治と犬養毅 一八九〇～一九一五』を読んで

前田 昌義

『近代日本政治と犬養毅 一八九〇～一九一五』への補遺

―書評にこたえて 久野 洋

読書日記 大岡敏昭『新訂幕末下級武士の絵日記―その暮らしの風景

を読む』 網澤 広貴

◆岡山藩研究 岡山藩研究会

〒169-8051東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部 大橋研究室気付

<http://okayamahanwaseda.seesaa.net/?1465280813/>

◇93 2023.10 B5 8p

〈第31回総会の記録〉

報告要旨 松平造酒助の江戸在勤 根本佐智子

参加記 根本佐智子氏報告参加記 神奈川県立博物館所蔵「松平造酒

助江戸在勤日記」の研究及び展示を回顧して 寺西 明子

参加記 根本佐智子氏報告「松平造酒助江戸在勤日記」参加記 仲泉 剛

◆岡山民俗学会会報

〒700-0089岡山市北区津島本町16-5-3 小嶋博巳方 年4000円

<http://okayamaminzokugakkai.web.fc2.com>

◇231 2023.9 B5 6p

今宵は岡山の地酒で一献を一岡山県立博物館特別展「醸す」 木下 浩

研究発表要旨

6月例会

岡山県内入定塚伝説に関するレポート(1) 田島 吉章

矢掛町上高末の屋敷内金毘羅燈籠について 野田 和心

第8回岡山民俗学会・御影史学研究会合同研究会

岡山県内入定塚伝説に関するレポート 田島 吉章

文字から声をヨム―小栗判官の話型など 高木 史人

岡山県総社市岡谷 友野氏の先祖信仰

- 一寺院の成立と心浄大師の伝承 平松 典晃
『言継卿記』天文13・14年(1544・45)にみる医業関係記事について
- 中村 雅俊
最上孝敬の両墓制成因論考(『岡山民俗』244号に投稿) 加藤 正春
- 新刊紹介
立石憲利編著『真庭市の民話 第四卷(美甘地区 河合洋右の語り)』 山本 美香
岡山大学文明動態研究所編『大学的岡山ガイドーこだわりの歩き方』 小嶋 博巳
- 別冊(3頁)
受贈図書・雑誌 目次抄録(2023年5月～2023年8月受贈分)

◆きび野かわら版 岡山県郷土文化財団

〒700-0822岡山市北区表町1-7-15 702号 TEL086-233-2505

<http://www.o-bunka.or.jp>

◇3 2023.9 A5 8p

岡山県内各地に点在する岡崎嘉平太ゆかりの地 岡崎嘉平太記念館／
吉備中央町／総社市／岡山市／真備町(現倉敷市)

広島県

◆市史広報 尾道市史編さん委員会事務局だより

〒722-0022尾道市栗原町1268-1 旧尾道高校本館 企画財務部文化振興課内

TEL0848-38-9359 2016年創刊

◇11 2023.1 A4 6p

表紙 瀬戸田町・生口神社の祇園祭。神輿流しを終えて海から神輿を
上げる際の記念写真。昭和5年(1930)。尾道市蔵

尾道の祭り風土記～しまなみ編概説

尾道の祭り風土記～しまなみ編 向島 兼吉のとんど／向東 オハケ
神儀(鎮護祭)／岩子島 管絃祭／百島 お弓神事／因島 大浜神明
祭／因島 曳舟神事／生口島 名荷神楽／高根島 ホーランエンヤ
因島の御鳥喰(おとぐい)神事～八重子島祭

◇12 2023.4 A4 6p

表紙 富籤興行図(尾道市立中央図書館蔵)

『新尾道市史 資料編 近世』の概要

西向 宏介

『新尾道市史 資料編 近世』史料紹介コーナー 二二 コレラ流行

につき対処一件 安政五年(1858)九月 広島県立文書館・青木茂氏
 「諸控」(嘉永七年)(第8章 凶作・飢饉と災害)
 文化財講座Ⅱ 近世港町尾道の町政 中山富廣先生(広島大学名誉教授)
 ◇13 2023.7 A4 6p
 表紙 昭和40年代初め頃の尾道駅前ロータリー風景(尾道市教育委員
 会所蔵古写真より)と原風景(2023年6月撮影)
 写真で辿る今昔物語 千光寺公園(旧公園)／住吉浜／長江通り／防地
 口交差点／本通り商店街／東御所海岸／向島兼吉渡船棧橋／土生商
 店街
 手彩色とカラー総天然色の絵葉書 浄土寺風景

◆備陽史探訪 備陽史探訪の会

〒720-0824福山市多治米町5-19-8 TEL084-953-6157 <https://bingo-history.net>

◇231 2023.9 A4 20p

| | |
|-----------------------------|---------|
| 備後国衆列伝(17) 甲奴郡の田総氏 | 田口 義之 |
| 福山城下惣構北側の防御(1) | 瀬良 泰三 |
| 調査報告 中世石造物の調査報告 7月22日(土) | 文責・篠原芳秀 |
| 近世福山の歴史講座(47) 公領時代(水野家改易後) | 高木 康彦 |
| お尋ね申し上げ候 戦災樹木 | 岡田宏一郎 |
| 史料紹介 井上家文書(8) 乍恐以書付御歎奉申上候御事 | 文責・小林悠一 |
| 近代の福山を描く一福山町胡七福呉服商店 | 碓井 直輝 |
| 毛利興元は本当に愚かな人物なのか | 川内 和夫 |

◆わが町三原 みはら歴史と観光の会

〒723-0051三原市宮浦6-9-32 鈴木方 年3600円 FAX0848-63-9932

◇390 2023.9 B5 12p

表紙 三原のお盆はやっぱりやっさ踊り やっさ踊りで見せた三原の
 元気…三原駅前メインステージ前 元気はつらつ踊り／よく揃った
 芸術的踊り／児童も負けずついて行く／最後を飾る総踊り
 2023.8.12 撮影：鈴木健次(宮浦)

| | |
|--|-------|
| 今月の各地 旅日記2 九州編 日本の原郷を訪ねて | 友宗 邦夫 |
| 秋のバス研修旅行案内 毛利一族 四本目の矢 安芸宍戸氏の史跡巡 り 令和5年11月3日(金・文化の日) | 西村 雅幸 |
| 本町いろは歴史講座 「シン・本町物語2 前刷り」 令和5年7月27日 三原市本町会館 | 橋本 敬一 |
| 第45回県史協福山市大会の案内 | 事務局 |

◇391 2023.10 B5 12p

三原でも堪能できる逆さ富士 沼田川に映える逆さ富士？

沼田東町から臨む 2021.9.02 撮影：関浦敏(長谷)

今月の各地 僕イノシシの猪助です No.2

行長 啓三

昭和の思い出(2) 鉄道関連

大谷 和弘

わが土地の絶景と近代化遺産

関浦 敏

三原の、広島県の、江戸期の陸上交通(3)

三好 邦範

徳島県

◆徳島県立博物館ニュース

〒770-8070徳島市八万町向寺山 徳島県文化の森総合公園 TEL088-668-3636

1990年創刊 <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

◇132 2023.9 A4 8p

アナグリフ画像

中尾 賢一

Culture Club 暗闇に暮らすクモたちーホラヒメグモの世界

鈴木 佑弥

令和5年度特別陳列 立体画像でみる地形と博物館資料

情報BOX 博物館常設展示室の「紫外線」を探る

植地 岳彦

収蔵品紹介 恐竜時代の子ガメの化石

小布施彰太

レファレンスQ&A 木地師とはどのような人たちですか？

大橋 俊雄

福岡県

◆九州史学 九州史学研究会

〒819-0395福岡市西区元岡744 イースト一号館 九州大学文学部日本史学研究室内 TEL092-802-5098 1956年創刊

https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~his_jap/kyushusigaku/

◇194 2023.8 B5 71p

天文末弘治の九州南部と明朝・京都

窪田 頌

朝鮮通信使の海路における安全確保をめぐる対馬藩の対策と対応

吉田 智史

小特集 北部九州における感染症の歴史展示をふり返って

趣旨説明 小特集にあたって

赤司友徳／藤本健太郎／古川総一

紹介と解説

中津市歴史博物館「伝染病との戦い」展について

曾我 俊裕

長崎市シーボルト記念館「没後一五〇年 伊東玄朴と西洋医学」

展について

織田 毅

秋月×中津×武藤特別交流展「伝染病と闘う一種痘の導入と武雄
領の医学」について

古川 総一

◆太宰府市公文書館報

〒818-0110太宰府市御笠5-3-1 TEL092-921-2322 2015年創刊

<https://www.city.dazaifu.lg.jp/site/dazaifushi-kobunshokan/>

◇令和4年度 2023.5 A4 55p

公文書館パネル展 「太宰府市市制施行40周年記念 太宰府市公文書
館パネル展 令和の都太宰府ゆかりの人々～『太宰府人物志』から」

藤田 理子

I P Mセミナーに参加して

荻野 寛美

国立公文書館アーカイブズ研修Ⅱに参加して

藤田 理子

◆太宰府市公文書館紀要 年報太宰府学

〒818-0110太宰府市御笠5-3-1 TEL092-921-2322 2007年創刊

<https://www.city.dazaifu.lg.jp/site/dazaifushi-kobunshokan/>

◇17 2023.3 A4 74p

「紫藤の滝」の呼称が定着していく過程

一菅公伝説と虎麻呂伝説の狭間で

小鹿野 亮

宝満山峰入行事「秋峰」について

山村 信榮

大宰府における草花双鳥鏡出土墓の再評価

高橋 学

資料目録 旧社会教育課永年文書細目録4

大宰府所司の形成過程とその運営体制

重松 敏彦

佐賀県

◆末盧国 松浦史談会

〒847-0823唐津市旭が丘6-5 TEL0955-73-3549 年2000円 1962年創刊

◇235 2023.9 B5 20p

「唐津の近世文書教室」

古文書史料紹介『御用記録(名古屋組文書No.218)』

濱口 尚美

寺沢時代の未完史料

寺沢 光世

唐津・発掘・発見の話(23) 田島神社と糸山貞幹について

徳富 則久

庄屋文書にみる 朝鮮通信使余聞

山田 洋

唐津を探して 「曾禰家之墓」

徳富 則久

相知から壱岐へ退いた上松浦党相知氏等について

山口 浩

| |
|-------|
| 宮 崎 県 |
|-------|

◆石の証言 「八紘一字」の塔を考える会

〒880-0026宮崎市波島2-30-2 佐藤文則方 年2000円 1995年創刊

◇113 2023.10 A4 12p

石の証言 第六師団司令部 60cm×45cm 熊本城 幼年学校跡地であった所にある。

宮崎大学関周一教授の「宮崎の近代と戦争」受講生の塔案内を7月9日(日)に行いました。その【八紘一字の塔見学会感想】が届きましたので紹介します。

全国各地の「八紘一字」の石碑(3)

機関誌「石の証言」69号(2015年11月15日) 都内散策 「八紘一字」の石碑を訪ねて… 市谷・亀岡八幡宮の「八紘一字」石碑(2) 野崎 眞公

機関誌「石の証言」70号(2016年1月15日) 都内散策 「八紘一字」の石碑を訪ねて… 都内他、全国各地に見られる「八紘一字」の石碑(3) 野崎 眞公

「八紘一字」の塔案内…宮崎民医連／アンケートから

映画は時代を映す鏡(2)

生きる(1952年)／遠い夜明け(Cry Freedom)(1987年) 税田啓一郎

◆のべおか市史だより 市史編さん広報誌

延岡市教育委員会文化財・市史編さん課市史編さん係

〒882-0822延岡市南町2-1-8 TEL0982-22-7047 2021年創刊

◇1 2021.9 A4 8p

新しい「延岡市史」の編さんが始まりました！

表紙：竹瀬の渡し舟(延岡市北川町) 昭和14(1939)年頃 個人蔵

新しい「延岡市史」の編さんに寄せて 読谷山洋司

表紙写真について 川坂大橋(現在の竹瀬付近)

延岡市史編さん事業のはじまりにあたって 有馬 学

Message 市民からのメッセージ 吉田 敏春

「延岡市史編さん基本計画」の概要／おしえて！市史編さん」ってなあに？／市史編さん事業の経過／これまでの延岡市史等／新しい

『延岡市史』の刊行計画

専門部会長からのあいさつ

考古部会
古代部会
中世部会
近世部会
近現代部会
民俗部会

谷口 武範
柴田 博子
関 周一
大賀 郁夫
落合 弘樹
段上 達雄

どんな人が調査するの？ 延岡市史編集委員会および専門部会

◇2 2022.9 A4 8p

表紙 南延岡機関区(平成12年)

延岡地区の鉄道

部会通信 考古部会／古代部会／中世部会／近世部会／近現代部会／
民俗部会

延岡にゆかりのある資料や情報を探しています。／おしえて！市史編
さん」ってなあに？ どんな「しりょう」をあつめているの？

◇3 2023.3 A4 8p

表紙 くろがね三輪トラック、ダイハツ三輪トラック 三輪トラック
の荷台に乗る二人(北方町) 昭和27(1952)年頃 磯貝光子氏提供／
木材を積んだ三輪トラックに乗る子ども(北方町) 昭和30年代～40
年代 磯貝光子氏提供

「広報のべおか」「市史だより」への提供資料の一部(16件)

カルチャーゾーンフェスタを行いました！／子どもが糸つむぎを体験
糸つむぎの流れ～カルチャーゾーンフェスタ

部会通信 考古部会／古代部会／中世部会／近世部会／近現代部会／
民俗部会

市史編さん事業 歴史講演会、市史編さんの近況、史跡巡りを開催し
ました。

沖 縄 県

◆宮古郷土史研究会会報

〒906-0013平良市下里1223-8 下地和宏気付 TEL0980-72-9963
年3000円 1977年創刊 <https://kyodoshiken.ti-da.net>

◇258 2023.9 B5 8p

九月定例会レジメ

宮古の政治的支配者は誰か一天太・按司・殿について考える

事務局

十月定例会レジメ 宮古の墓の変遷について考える

久貝 弥嗣

ドイツ商船ロベルトソン号をめぐる最新の研究成果と今後の課題

一七月定例会を終えて

辻 朋季

伊良部島南海岸の現状—八月定例会の巡見を終えて

森谷 大介

宮古島市総合博物館 第四十一回企画展「コレ何?展」の紹介

寺崎 香織

宮古馬放牧場見学スタート!

夏休み親子ブーンミ体験講座

宮古苧麻績み保存会

「苧麻で紙漉き体験」の開催

久貝 弥嗣

投稿企画「私のイチ押し文化財」 「うりがー」から上水道へ

仲宗根将二

ネフスキーの三度めの宮古訪問

宮川 耕次

寄贈図書紹介

◆シンポジウム報告書 奥会津の戦国期文化をさぐる—学僧祐俊の旅と文化遺産
小池淳一編集 福島県只見町教育委員会 (〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30 TEL0241-82-5320) 2023年3月 A5 79頁

日本学術振興会(JSPS)科研費基盤(A)「中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明」、第49回(2020年度)三菱財団人文科学研究助成(大型連携研究助成50周年記念特別助成)「地域と連携する宗教文化遺産の探査とアーカイヴス化による文化遺産と社会の創成」によるシンポジウム報告集。はじめに／報告1 戦国期の学僧祐俊の旅と文化遺産(久野俊彦)、コメント(阿部美香)／報告2 仏教典籍の中央と地方—奥会津で発見された古典籍の価値(阿部泰郎)、コメント(プライアン・ルバート)／報告3 京都と東国の交流—京方法流本寺僧の東国下向と会津(坂本正仁)、コメント(近本謙介)

◆成城民俗学のすすめ

成城大学民俗学研究所編・刊 (〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20 TEL 03-3482-9097) 2023年10月 B5 50頁

成城大学民俗学創設50周年記念事業の一環として、民俗学研究所における成城民俗学の歩みをまとめる。一、民俗学と柳田國男(民俗学とは何か、柳田國男の学問、柳田國男の人生①～「何故に農民は貧なりや」、柳田國男の人生②～民俗学の形成と柳田の著作、柳田國男をめぐる人びと、『郷土研究』『民族』『民間伝承』、国際性、学問の確立、山村調査、日本民俗学会の誕生、民俗学の発展)／二、成城×民俗学(成城の町と柳田國男、成城民俗学のはじまり、柳田國男と社会科教育、柳田國男旧蔵書、柳田國男の書簡、堀文庫・平山文庫・鎌田文庫、追跡調査①～山村生活五〇年、追跡調査②～変わりゆく社会の定点観測、共同研究プロジェクトの充実、資料の収集と展示)／三、成城大学で民俗を学ぶ人のために(成城大学の民俗学教育、誰もが学び豊かになるための民俗学へ)

◆柳田國男のペーパー書入れにみる現代へのメッセージ

茂木明子編著 慶友社 (〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-48 TEL 03-3261-1361) 2022年11月 A5 291頁 4500円+税

成城大学民俗学研究所柳田文庫には柳田が赤や黒のインク等で記した書入れ文字や印が付されている書物が少なからずある。書入れには、忌憚のない読後感等が記されており、柳田の民俗学という学問を発展させたいという強い熱意や研究者育成の情熱が表出されている。本書では、柳田文庫の柳田書入れ本457冊の内容を詳しく紹介する。はじめに／第一部 柳田國男蔵書の書入れ 柳田國男関係書物(著者、編著書、著作収録書等)、叢書・全集、民俗学(総記、民俗誌、衣食住、生業、通過儀礼、年中行事、祭・信仰、口承文芸)、郷土誌、南島(沖縄、奄美大島・薩南諸島)、民族学・人類学・考古学、教育・心理・宗教、歴史・地理、言語・方言、文学／第二部 柳田國男の書入れに込められた世界観 書入れにみる注意符号の意味、注意符号と語彙採集、特筆すべき評価・批判等の書入れ、南島文献の書入れと沖縄研究への想い／あとがき／参考文献／人名・書名索引

◆奥能登の大型民家に見る文化とその継承

2023年度一般社団法人日本民俗建築学会誌上シンポジウム

日本民俗建築学会編・刊 (〒162-0834 東京都新宿区北町18) 2023年10月 A4 17頁 実行委員：村田一也(委員長)・新出直典・寺口学

2023年10月に石川県能登町で開催された一般社団法人日本民俗建築学会シンポジウムの報告集。会長挨拶(角幸博)／シンポジウム 「奥能登の大型民家に見る文化とその継承」—その主旨(村田一也)／基調講演 奥能登の大型民家とその成立(平山育男)／パネリスト報告 奥能登地域の歴史と民家の間取(村田一也)／パネリスト報告 体験そして民家の魅力再発見(森隆男)／パネリスト報告 不動産流通の現状からみた古民家の継承(豊島祐樹)／パネルディスカッション 村田一也(コーディネーター)・平山育男・森隆男・豊島祐樹

◆瀬戸内の島と湊 歴史探訪

橋詰茂著 美巧社 (〒760-0063 香川県高松市多賀町1-8-10 TEL087-833-5811)

2022年1月 B5 115頁

はしがき／朱印状の島(塩飽)／古絵図に描かれた二つの国に属する島(小豆島)／上方・江戸と石で結ばれた島(小豆島)／屋根の形をした島(屋島)／転換する瀬戸内海運(粟島・志々島)／伝説の島を巡る(直島・雌雄島・伊吹島)／大坂城の石垣をささえた石の島(塩飽諸島・犬島・前島)／村上海賊衆の島(能島・来島・因島)／近代建築を支えた石の島(北木島)／国宝と信仰の島(大三島)／寺々が並び立つ湊(宇多津)／神人の浦(仁尾)／神社と一体になった湊町(観音寺)／金毘羅参詣と鉄道拠点の湊(多度津)／こんぴら参詣の湊(丸亀)／屏風図から見る湊と城下(高松)／伝承の残る浦(志度)／砂糖の積み出して栄えた東讃の湊(津田・鶴羽・三本

松)／城山を望む湊(三津)／渡船が結ぶ城と湊(三津)／古からの阿波の湊(土佐泊・撫養)／権力抗争となった湊(岩屋)／四国への渡海の湊(北津井)／朝鮮通信使が立ち寄った湊(牛窓)／坂道と映画の舞台になった湊町(尾道)／日東第一形勝浦(軻)／参勤交代上陸の湊(播磨室津)／あとがき

◆後記

日本古書通信社の樽見博さんから、父君の遺品の画に裏張りされていた1923(大正12)年10月17日付の『南信新聞』をいただいた。同紙は長野県下伊那地域をカバーする商業紙で、1902(明治35)年から1939(昭和14)年頃まで発行された(後藤総一郎編著『飯田・下伊那新聞雑誌発達史 郷土百年のジャーナリズム』(南信州新聞社出版局 1997))。

記事に、「信南自由大学設立に就て」があった。執筆者は、翌年1月に飯田町(現飯田市)で開講する同大学発起人の一人横田憲治で、設立趣旨、組織、学科目、講師などを記し、参加を呼び掛けている。自由大学は大正デモクラシー高揚期に、思想家土田杏村の指導のもと上田市で始められた自主企画・運営による民間教育運動である。労働しながら生涯学ぶことを教育の本義とし、自律の人格形成を旨とした。県内各地から新潟県、群馬県にまで広がった。横田は、教育は終生の事業であり、教育と労働を結合させ、民衆の教育要求を直接に表現した場所にしたいと熱い思いを表明している。山本宣治、高倉輝、谷川徹三、三木清、高橋亀吉ら錚々たる講師陣を迎え、その後伊那自由大学と名を変え、1929年12月まで続いた(佐々木敏二著『長野県下伊那社会主義運動史』信州日報 1978)。

この地域には自律型の学びの風土がある。信南自由大学から半世紀を経た1977年、後藤総一郎が柳田国男の常民思想を掲げ、郷里の南信濃村(現飯田市)に遠山常民大学を開講し、自主運営、身銭主義、在地思想で、自己認識と普遍性の獲得をめざした。静岡県から岩手県まで最大で10大学が設立され、1983年からは回り持ちで合同研究会も開かれている。折しも本年11月3～4日、常民大学発祥の地南信濃で、「常民大学運動50年・後藤総一郎没後20年記念 第34回常民大学合同研究会」が開催される。テーマは「常民大学運動の果実」。今日の普遍的に共通する課題を深め、感性豊かに人間らしく凛として生きるための歴史意識の形成を探るとしている。横田が記したように生活者の学びは終生のものだと思う。

(飯澤)

地方史情報 164 2023年(令和5年)11月1日 発行

編集・制作 : 白鳥舎 hakucho@eris.ais.ne.jp

ウェブサイト公開 : 岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103 TEL03-3326-3757

*本誌は、140号より、PDF版のみの発行です。